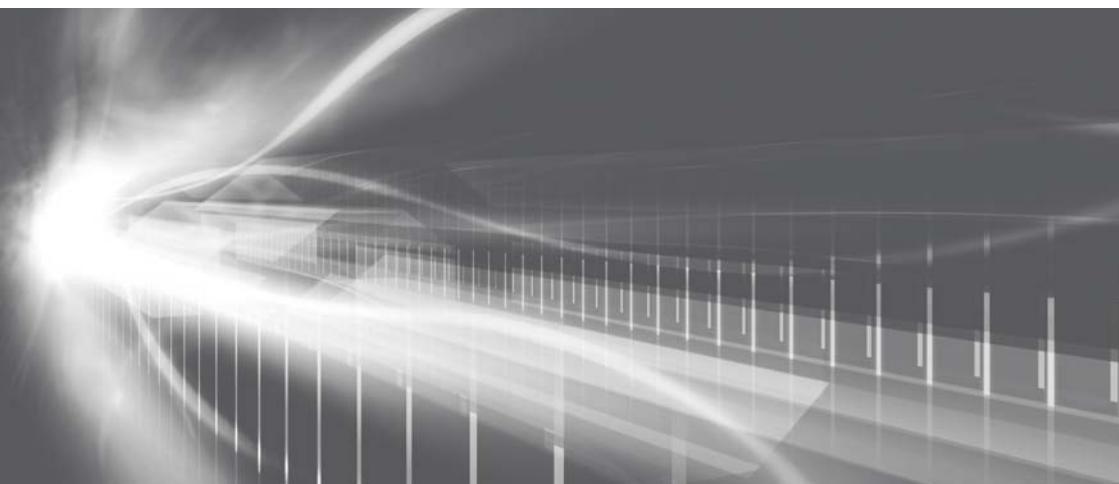




トヨタ ウェルキャブシリーズ



ウェルキャブ フレンドマチック取付用専用車
取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PRIUS



1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 車内外への乗り降り

車内外への乗り降り、車いすの格納に関する説明

3 各部の操作／運転

シートの調整、ウェルキャリー、専用パワーステアリング、
バックドアの開閉に関する説明

4 お手入れのしかた

ウェルキャブ装備のお手入れに関する説明

5 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

6 点検・整備項目

定期点検整備についての説明

本書の見方	4
タイプ別主要装備一覧表	5
イラスト目次	6
一般的な使用上の注意	10
リモコン式専用運転席	
パワーシートが	
動かなくなったときは	
(タイプII／タイプIV)	12
ウェルキャリーが	
動かなくなったときは	
(タイプIII／タイプIV)	13

1 安全・安心のために

1-1. 安全なドライブのために	
車内外への乗降 ·	
車いすの格納について	16
補機バッテリーについて	
(タイプIII／タイプIV)	20

2 車内外への乗り降り

2-1. リモコン式専用運転席	
パワーシート	
(タイプII／タイプIV)	
専用リモコン	
(タイプII／タイプIV)	22
2-2. ウェルキャリー	
(タイプIII／タイプIV)	
ワイヤードリモコン	
(タイプIII／タイプIV)	26
ワイヤレスリモコン	
(タイプIII／タイプIV)	29

2-3. 車内外への乗降および 車いすの格納	
車内外に乗降するときは	32
車いす固定用ストラップ (タイプII／タイプIV)	36
車内外への乗降および 車いすの格納 (タイプI)	38
リモコン式専用運転席	
パワーシートでの	
車内外への乗降および 車いすの格納 (タイプII)	41
車内外への乗降および 車いすの格納 (タイプIII)	50
リモコン式専用運転席	
パワーシートでの	
車内外への乗降および 車いすの格納 (タイプIV)	58

3 各部の操作／運転

3-1. 助手席シート (タイプI／タイプII)	
助手席前倒し機構& 操作ストラップ (タイプI／タイプII)	68
3-2. リモコン式専用運転席	
パワーシート (タイプII／タイプIV)	
リモコン式専用運転席	
パワーシートの調整 (タイプII／タイプIV)	69
ヘッドレスト	74
3-3. ウェルキャリー (タイプIII／タイプIV)	
ウェルキャリー (タイプIII／タイプIV)	76
車いす吊上げバンド (タイプIII／タイプIV)	84

3-4. 運転支援装置について	
専用パワーステアリング 85	
3-5. バックドアの開閉	
バックドアストラップ 86	
4 お手入れのしかた	

4-1. ウエルキャリーの手入れ	
(タイプIII／タイプIV)	
ウェルキャリーの清掃	
(タイプIII／タイプIV) 90	

5 万一の場合には

5-1. 故障かな?とお考えになる前に	
ヒューズの交換 (タイプII／	
タイプIII／タイプIV) 94	
リモコン式専用運転席	
パワーシートが	
動かないときは	
(タイプII／タイプIV) 96	
ウェルキャリーが	
動かないときは	
(タイプIII／タイプIV) 97	
ワイヤレスリモコン	
の電池交換	
(タイプIII／タイプIV) 98	

5-2. 緊急時の対処法	
ウェルキャリーが	
振出した状態で	
格納できないときは	
(タイプIII／タイプIV) 100	
ハイブリッドシステムが	
始動できないときは	
(タイプIII／タイプIV) 107	

6 点検・整備項目

6-1. 点検・整備項目	
(タイプIII／タイプIV)	
定期点検整備	
(タイプIII／タイプIV) 110	

さくいん

こんなときは	
(症状別さくいん) 114	
車から音が鳴ったときは	
(音さくいん) 117	
五十音順さくいん 118	

本書はウェルキャブ フレンドマチック取付用専用車の装備について記載しています。

車両全体の取り扱い方法や注意事項などは、必ず別冊の標準車取扱書をお読みください。

ただし、ウェルキャブ装備により、お車と標準車取扱書の仕様や機能が一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の見方

⚠ 警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

⚠ 注意

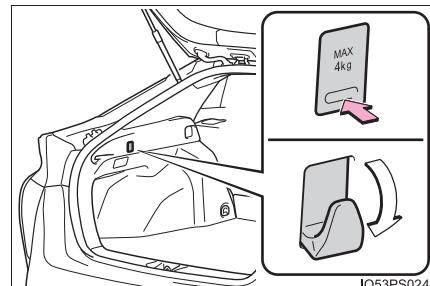
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3

操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

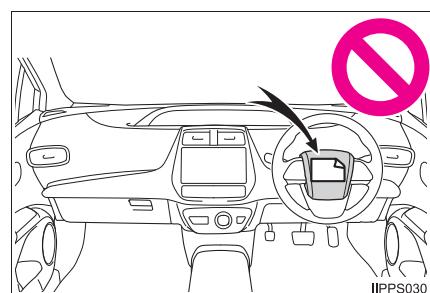
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

🚫 “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



□ 知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

タイプ別主要装備一覧表

タイプにより主要装備が異なります。次の一覧表を確認してください。

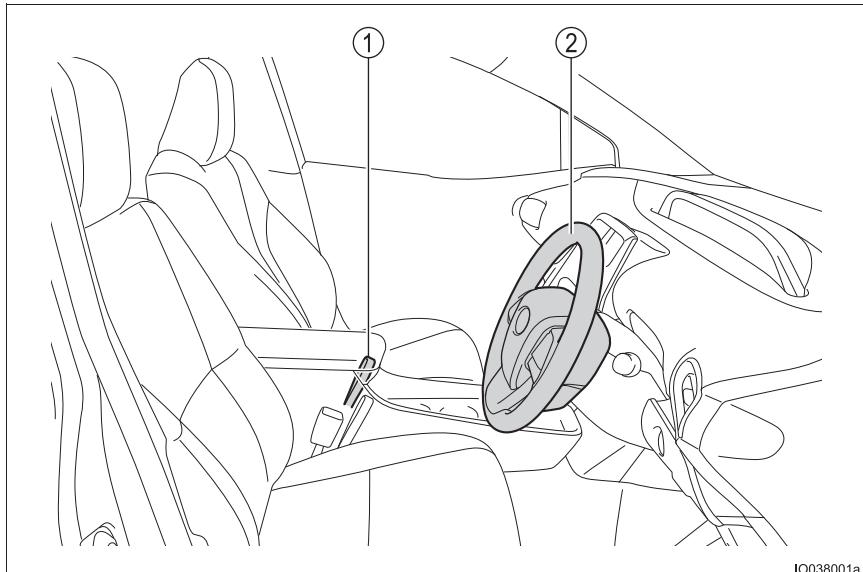
● : 装備

主要装備	タイプI	タイプII	タイプIII	タイプIV
専用パワーステアリング	●	●	●	●
バックドアストラップ	●	●	●	●
助手席前倒し機構&操作ストラップ	●	●	—	—
リモコン式専用運転席パワーシート	—	●	—	●
ウェルキャリー	—	—	●	●

イラスト目次

■ 専用パワーステアリング

■ 助手席前倒し機構 & 操作ストラップ (タイプI / タイプII)

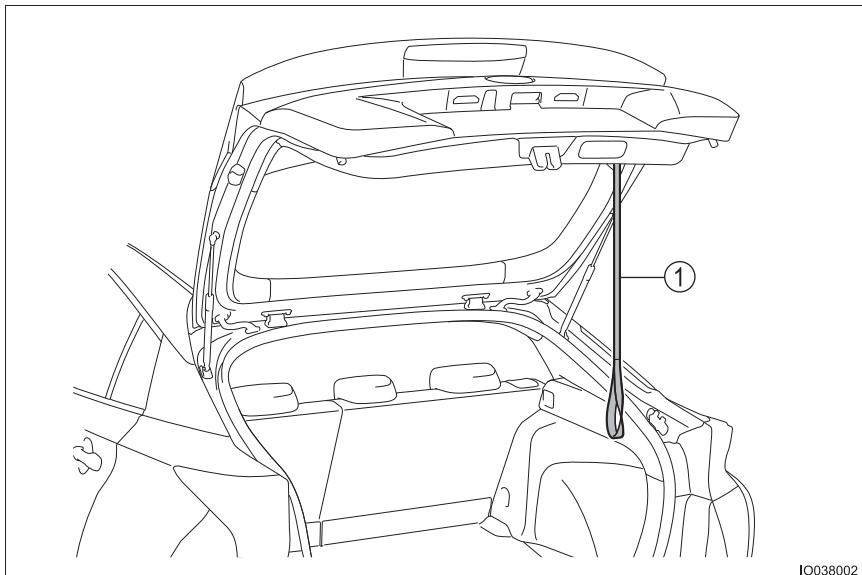


IO038001a

① 助手席前倒し機構&操作ストラップ P. 43, 68

② 専用パワーステアリング P. 85

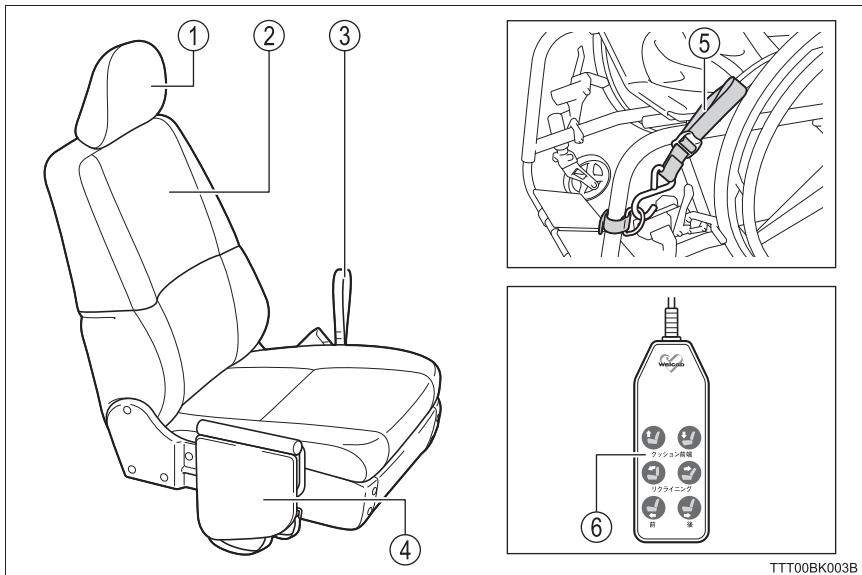
■ バックドアストラップ



IO038002

- ① バックドアストラップ P. 86

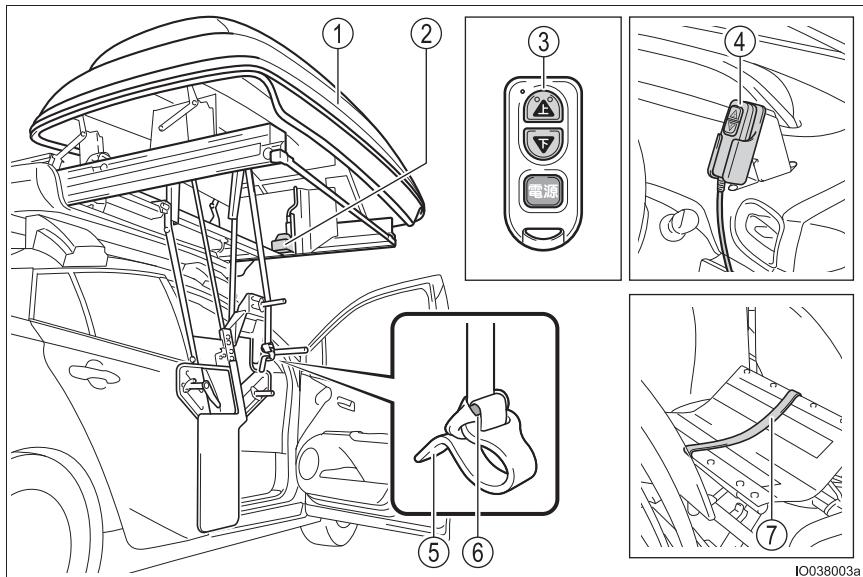
■ リモコン式専用運転席パワーシート（タイプII／タイプIV）



タイプI、タイプIIIの運転席シートは標準車のシートが装備されます。

- | | |
|-------------------------|----------|
| ① ヘッドレスト | P. 74 |
| ② 中折れ式シートバック | P. 70 |
| ③ シートバック中折れ用ストラップ | P. 70 |
| ④ 移乗ボード | |
| タイプII | P. 42～46 |
| タイプIV | P. 59～61 |
| ⑤ 車いす固定用ストラップ | P. 36 |
| ⑥ 専用リモコン | P. 22 |

■ ウェルキャリー（タイプIII／タイプIV）



IO038003a

① ウェルキャリー	P. 76
作動条件	P. 77
振出した状態で格納できないときは	P. 100
② 夜間照明灯	P. 76
③ ワイヤレスリモコン	P. 29
電池交換	P. 98
④ ワイヤードリモコン	P. 26
⑤ フック	P. 84
⑥ C リング	
⑦ 車いす吊上げバンド	P. 84

一般的な使用上の注意

車いすからリモコン式専用運転席パワーシートへの移乗について

車いすからリモコン式専用運転席パワーシートへ移乗するためには、安全に操作でき、運転席ドアが全開できるスペースが必要です。

運転席ドア付近に他の車を駐車されると、車両に乗降できなくなります。

リモコン式専用運転席パワーシートについて（タイプII／タイプIV）

- 車両のパワースイッチがONモード、かつパーキングブレーキが解除されている場合、リモコン式専用運転席パワーシートの操作はできません。（→ P. 12）
- リモコン式専用運転席パワーシートは標準車のシートとは異なります。リクライニング角度（フルリクライニングはできません）、シートバック角度、シート前後スライド量は標準車とは異なります。また、SRS サイドエアバッグも装着されません。

運転席側のフロントドアポケット（ボトルホルダー部分）について（タイプII／タイプIV）

運転席側のフロントドアポケット（ボトルホルダー部分）は専用リモコンの収納位置になるため、使用できません。

ウェルキャリーについて（タイプIII／タイプIV）

- ルーフ上のウェルキャリー内部に手が届かない方は、P. 103～105 の故障時の緊急格納作業ができません。
故障時はトヨタ販売店または専門業者に P. 103「スイッチを押してもウェルキャリーが作動しないとき」の操作をご依頼ください。
- ウェルキャリーを作動させる前に、必ず車両のパワースイッチを ON モード以外にし、パーキングブレーキをかけてください。そうしないとウェルキャリーは作動できません。（→ P. 13）
- ウェルキャリーを完全格納しても、ハイブリッドシステムが始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

- ワイヤードリモコンの格納スイッチを、“ピピッ”というブザーが鳴るまで押し続けて完全格納してください。
ウェルキャリーが完全格納されていないときは、ハイブリッドシステムを始動できません。
その場合、マルチインフォメーションディスプレイに、「始動時はブレーキを踏みながらパワースイッチを押してください」との表示が出ますので、ウェルキャリーを完全格納してください。（“ピピッ”というブザーが鳴れば完全格納状態）
- 駐車時は、車両右側および上方に十分なスペースが必要です。
(→ P. 81)
- 補機バッテリーがあがってしまうとウェルキャリーの操作ができなくなります。
- ウェルキャリーとルーフのすき間は狭いため、洗車時に清掃はできません。
(→ P. 90, 91)
- 自動洗車機は使用しないでください。ウェルキャリーが破損するおそれがあります。
- ウェルキャリーは車いす1台分の車いす専用格納装置です。車いす以外のものを格納しないでください。
- トヨタ販売店で、お客様の車いすに合わせてウェルキャリーの車いす固定部の調整と、車いす吊上げバンドの取り付け、調整を行ってください。また、格納する車いすがかわった場合も、トヨタ販売店でウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの再調整を行ってください。
(→ P. 84)

不測の事態に備えて

- 常に携帯電話を持たれることをおすすめします。
- お車をご購入の販売店の所在地および電話番号を次にひかえておくと便利です。

販 売 店		
所 在 地		
電 話 番 号	()	-

リモコン式専用運転席パワーシートが動かなくなったときは（タイプII／タイプIV）

作動条件の確認

次の作動条件を満たしていることを確認してください。

○：作動 ×：非作動

車両の パワースイッチ	パーキング ブレーキ	前後位置 調整	リクライニング 調整	クッション 前端の高さ 調整
ON モード	かかっている	○	○	○
	解除	×	×	×
ON モード以外	かかっている	○	○	○
	解除	○	○	○

作動条件を満たしているにもかかわらずリモコン式専用運転席パワーシートが動かなくなった場合

■ 正しい乗車姿勢で運転できる場合

ハイブリッドシステムを始動し、そのまま運転してすみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 正しい乗車姿勢で運転できない場合

そのまま運転せず、すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。やむを得ず運転する必要がある場合は、最小限の車両移動としてください。

不測の事態に備えて

P. 11 の『不測の事態に備えて』を確認してください。

ウェルキャリーが動かなくなったときは（タイプIII／タイプIV）

作動条件の確認

次の作動条件を満たしていることを確認してください。

○：作動 ×：非作動

車両の パワースイッチ	パーキング ブレーキ	振出作動	格納作動
ON モード	かかっている	×	×
	解除	×	×
ON モード以外	かかっている	○	○
	解除	×	×

作動条件をすべて満たしているにもかかわらずウェルキャリーが動かなくなってしまった場合

■ ウェルキャリーが完全格納されている場合

ハイブリッドシステムを始動し、そのまま運転してすみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ウェルキャリーが完全格納されていない場合

すみやかにトヨタ販売店または専門業者に P. 103 「スイッチを押してもウェルキャリーが作動しないとき」の操作をご依頼ください。

不測の事態に備えて

P. 11 の『不測の事態に備えて』を確認してください。

安全・安心のために ～必ずお読みください～

1

1-1. 安全なドライブのために

車内外への乗降・ 車いすの格納について	16
補機バッテリーについて (タイプIII／タイプIV)	20

車内外への乗降・車いすの格納について

車内外への乗降および車いすの格納について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

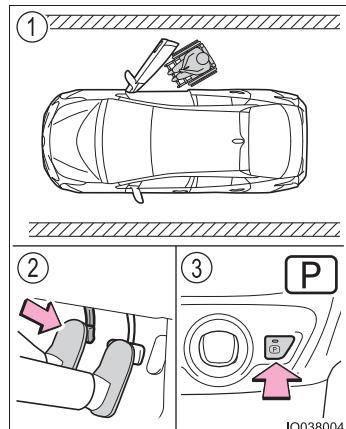
⚠ 警告

■ 運転席シートに乗降するときは

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、ハイブリッドシステムを停止して平坦で段差や突起物のない場所で行い、凍結路などすべりやすい路面での乗降をしないでください。

バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。

- ① 平坦で運転席ドアを全開できるスペースがある場所で乗降する
- ② パーキングブレーキを確実にかける
- ③ シフトポジションをPにする



⚠️ 警告

■ 移乗ボードをセットしたときは（タイプII／タイプIV）

移乗ボードを前後左右にゆすり、確実に移乗ボードが車いすサイド部左側フレームにセットされていることを確認してください。

移乗ボードが確実にセットされていないと、移乗中に移乗ボードがはずれ、移乗ボードから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

移乗ボードをセットしたときは次のことを確認してください。

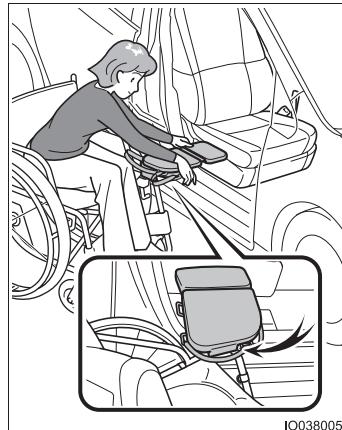
- 車いすのブレーキが両輪ともかけられていること
- 移乗ボード裏面のツメが車いすに確実にかかっていること
- 車いすが車いす固定用ストラップで確実に固定されている（車いす固定用ストラップのフックが移乗ボードのパイプに確実にかかっている）こと
(→ P. 43, 61)

■ 車いすを車内に格納したときは（タイプI／タイプII）

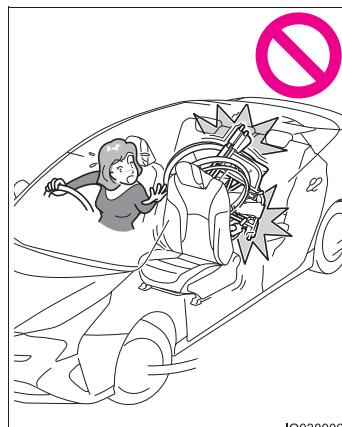
車いすが確実に格納され、運転操作のさまたげにならないことを確認してください。確実に格納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに車いすが動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車いす格納後、助手席シートを次のように調整してください。

- 背もたれを必ず起こした状態にしてください。
- 車いすが動かないように前後位置を調整してください。



IO038005

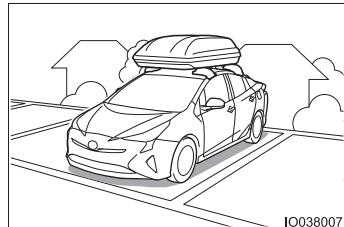


IO038006

⚠ 警告

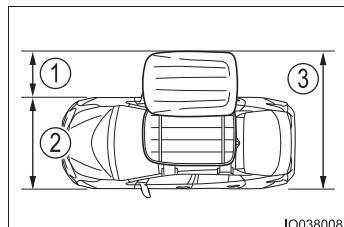
■ ウェルキャリーの操作について（タイプIII／タイプIV）

- 平坦で段差や突起物のない場所で乗降およびウェルキャリーの操作を行ってください。
バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。



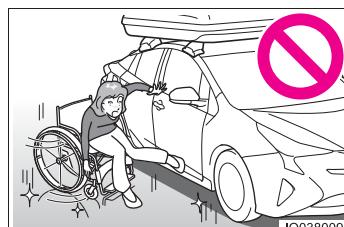
- 駐車時は、車両右側に十分なスペースがあることを確認してください。
車両に乗降できなくなったり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ① 795mm
- ② 1760mm
- ③ 2555mm

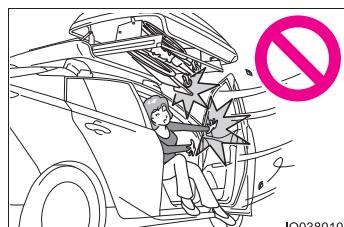


* 各寸法値は設計値を示します。実測値は若干異なることがあります。

- 凍結した路面などすべりやすい路面での乗降をしないでください。
バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。



- 強風時は作動させないでください。
ドアが不意に閉まり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



 **注意**
■故障・破損を防ぐために（タイプIII／タイプIV）

- 積雪時は、雪を取り除いてからウェルキャリーを作動させてください。ウェルキャリーが破損するおそれがあります。
また、積雪量が多い場合は、保護機能が働き作動しない場合があります。（→ P. 77）



- 強風（横風）時や急カーブ、不整地などの走行時は、スピードを抑えて安全運転をしてください。



- 強風時はウェルキャリーを作動させないでください。
ウェルキャリーやドアを破損するおそれがあります。
- 自動洗車機は、使用しないでください。
ウェルキャリーが破損するおそれがあります。

補機バッテリーについて（タイプIII／タイプIV）

補機バッテリーについて、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

□ 知識

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

- ウエルキャリー操作中に補機バッテリーをはずさないでください。ウェルキャリーが作動しなくなります。
- ウエルキャリー操作中に補機バッテリーの交換またははずしたときは、補機バッテリーの接続状態を確認し、P. 100の方法でリセット操作をしてください。

車内外への乗り降り

2

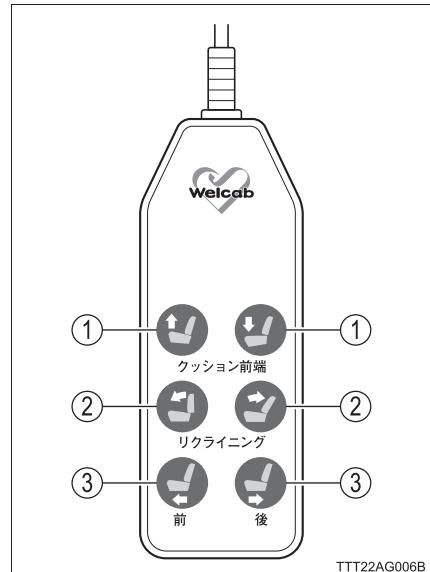
2-1. リモコン式専用運転席 パワーシート (タイプII／タイプIV)	
専用リモコン (タイプII／タイプIV)	22
2-2. ウェルキャリー (タイプIII／タイプIV)	
ワイヤードリモコン (タイプIII／タイプIV)	26
ワイヤレスリモコン (タイプIII／タイプIV)	29
2-3. 車内外への乗降および 車いすの格納	
車内外に乗降するときは	32
車いす固定用ストラップ (タイプII／タイプIV)	36
車内外への乗降および 車いすの格納 (タイプI)	38
リモコン式専用運転席 パワーシートでの 車内外への乗降および 車いすの格納 (タイプII)	41
車内外への乗降および 車いすの格納 (タイプIII)	50
リモコン式専用運転席 パワーシートでの 車内外への乗降および 車いすの格納 (タイプIV)	58

専用リモコン（タイプII／タイプIV）

専用リモコンでリモコン式専用運転席パワーシートの操作ができます。

各部の名称

- ① クッション前端の高さ調整
(乗降時は使用しません)
- ② リクライニング調整
- ③ 前後位置調整



専用リモコンを使用するときは

専用リモコンを脚の上に置き、もう片方の手でスイッチを押す

片方の手の平を専用リモコン後部のフックに入れると、専用リモコンを固定しやすくなります。



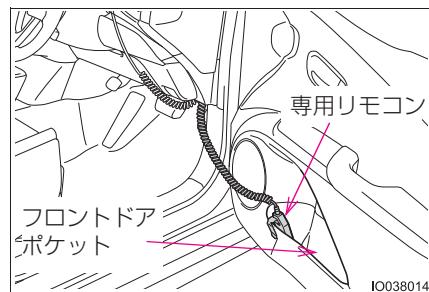
2

車内外への乗り降り

専用リモコン使用後は

専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する

専用リモコンがフロントドアポケットの外側に出た状態にしないでください。



□ 知識

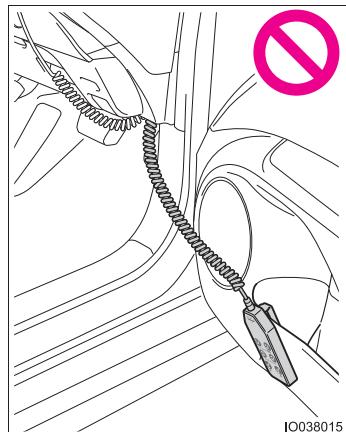
■ 専用リモコンについて

- リモコン式専用運転席パワーシートが作動中にスイッチから指を離すと、リモコン式専用運転席パワーシートはその位置で停止します。
- 複数のスイッチを同時に押すと、リモコン式専用運転席パワーシートは作動しません。

⚠ 警告

■ 専用リモコンを収納するときは

- 運転席ドアのフロントドアポケットに正しい方向で収納してください。
 - ・ 専用リモコンがフロントドアポケットの外に出た状態にすると、リモコン式専用運転席パワーシートや車いすなどにあたり、思わぬ動きをして重大な事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ 取り出し時に引っかかったり、コードがねじれて断線につながるおそれがあります。



- 運転席ドアのフロントドアポケットには、専用リモコン以外のものを入れないでください。

専用リモコンが破損したり、リモコン式専用運転席パワーシートの誤作動の原因になり、リモコン式専用運転席パワーシートから転落したりするなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 専用リモコンの取扱いについて

- 専用リモコンを取り出すときは、コードを持って引っ張り出さないでください。
コードが断線するおそれがあります。
- 専用リモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ ダッシュボードの上など、直射日光のあたる場所および高温になるところに置かない
 - ・ 分解しない
 - ・ 落としたり、車いすで踏むなどの強い衝撃を与えない
 - ・ 飲み物などをこぼしたり、水たまりなど、水中に落下させない
(防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください)
- 専用リモコンのスイッチを断続的に押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。
- 専用リモコンのスイッチの切りかえ操作をするときは、約1秒以上たってから行ってください。
瞬時に切りかえを行うと、リモコン式専用運転席パワーシートが故障するおそれがあります。
- リモコン式専用運転席パワーシートの作動が完了したら、専用リモコンのスイッチから指を離してください。
スイッチを押し続けると、リモコン式専用運転席パワーシートの故障の原因になります。
- 専用リモコンの清掃にシンナー、ガソリン、ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

■ 専用リモコンを収納するときは

- 専用リモコンのスイッチを押さないよう注意してください。
- 専用リモコンは必ず運転席ドアのフロントドアポケットに収納してください。
フロントドアポケット以外の場所に収納すると、運転席ドアを開けたときに専用リモコンが落下し、破損するおそれがあります。

■ 運転席ドアを閉めるときは

→ P. 49

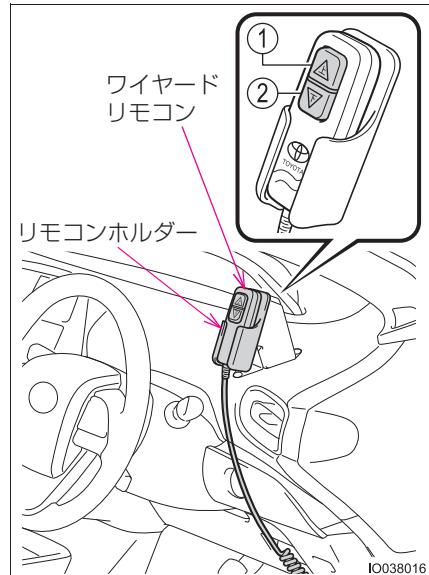
ワイヤードリモコン（タイプIII／タイプIV）

ワイヤードリモコンでウェルキャリーの振出および格納操作ができます。
(ワイヤレスリモコンでも、同様の操作が行えます)

各部の名称

- ① 格納スイッチ
- ② 振出スイッチ

操作しないときは、リモコンホルダー
にもどします。



□ 知識

■ ウエルキャリーの作動条件について

→ P. 77

■ ウエルキャリーの作動について

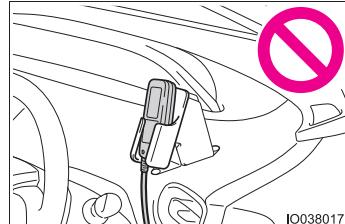
- ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押し、“ピーッ”とブザーが鳴ってから作動します。断続的にワイヤードリモコンのスイッチを押してもウエルキャリーは作動しません。
- ウエルキャリーが作動中にワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチから指を離すと、ウエルキャリーはその位置で停止します。

⚠ 警告

■ ワイヤードリモコンを収納するときは

ワイヤードリモコンを使用しないときは、リモコンホルダーに正しい方向で収納してください。

リモコンホルダー以外の場所に収納したり正しい方向で収納しないと、ウエルキャリーが思わぬ動きをして危険です。

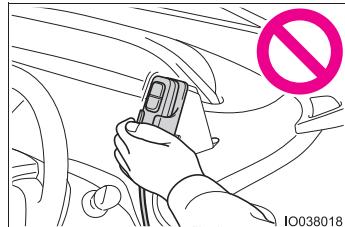


IO038017

⚠ 注意

■ 故障を防ぐために

- ワイヤードリモコンを落としたり、車いすで踏まないように注意してください。
ワイヤードリモコンが破損するおそれがあります。
- ワイヤードリモコンは水にぬらさないでください。
飲み物などをこぼしたり、水たまりなど水中に落下すると故障するおそれがあります。
- ドアを閉めるときは、ワイヤードリモコンやコードをドアに挟み込まないように注意してください。
ワイヤードリモコンが破損したり、コードが断線するおそれがあります。
- ワイヤードリモコンはコードを持って引っ張らないでください。
コードが断線するおそれがあります。
- ワイヤードリモコンのスイッチを断続的に押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。
- 乗降時などに、リモコンホルダーを持たないでください。
リモコンホルダーが破損するおそれがあります。



- ワイヤードリモコンを使用しないときは、リモコンホルダーに正しい方向で収納してください。
使用時に引っかかったり、コードがねじれて断線につながるおそれがあります。

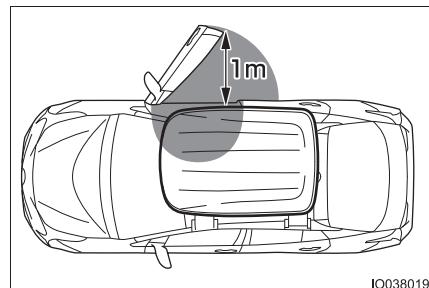
ワイヤレスリモコン（タイプIII／タイプIV）

ワイヤレスリモコンでウェルキャリーの振出および格納操作ができます。

ワイヤレスリモコンの電池切れ、故障および紛失などにより使用できないときは、ワイヤードリモコンを使用してウェルキャリーの振出および格納操作を行ってください。

作動可能範囲

ウェルキャリーから約1m

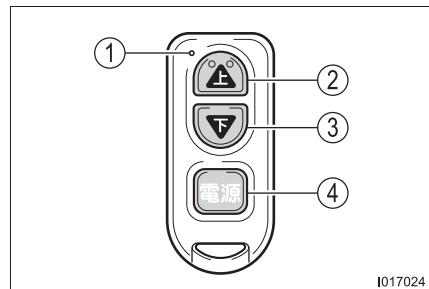


2

車内外への乗り降り

各部の名称

- ① 動作表示 LED
- ② 格納スイッチ
- ③ 振出スイッチ
- ④ 電源スイッチ



使い方

ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、6秒以内（動作表示LED赤色点灯時）に振出スイッチまたは格納スイッチを押し続ける（動作表示LED緑色点滅）

 知識

■作動条件について

- ワイヤレスリモコンは、周囲の状況により作動可能範囲がかわることがあります。
- 周囲の電波状況により、ワイヤレスリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押してもウェルキャリーが一時的に停止する場合や、作動しなくなることがあります。そのときは位置をかえて操作してください。
その際、ワイヤレスリモコンのスイッチを押し直してください。押し続けたまま位置をかえてもウェルキャリーは作動しません。

■ワイヤレスリモコンについて

- ワイヤレスリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。
 - ・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - ・ 必ず日本国内でご使用ください。
- ワイヤレスリモコンの送信機もしくは受信機を交換したときは、受信機のIDコードを登録する必要があります。登録はトヨタ販売店にお申し付けください。
- ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してから 6 秒以内に振出スイッチまたは格納スイッチを押さないと、自動的に電源が切れます（動作表示 LED 消灯）。ワイヤレスリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押すと、電源はスイッチから指を離した時点より 6 秒延長します。
- ワイヤレスリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押し、“ピーッ”とブザーが鳴ってから作動します。断続的にワイヤレスリモコンのスイッチを押してもウェルキャリーは作動しません。
- ウェルキャリーが作動中にワイヤレスリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチから指を離すと、ウェルキャリーはその位置で停止します。
- 複数のスイッチを同時に押すと、ウェルキャリーは作動しません。

■電池について

- 電池寿命は約 1 年間です。ただし、電池寿命は実際の使用状況によってかわります。
- ワイヤレスリモコンを操作してもウェルキャリーが作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、または動作表示 LED が点灯しなくなったり、点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。電池はお客様自身で交換できます。（→ P. 98）

■ 知識

■ 航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 警告

■ 電波がおよぼす影響について

医療用電気機器（以下を除く）を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

- 植込み型心臓ペースメーカー
- 植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ
- 植込み型除細動器

■ 注意

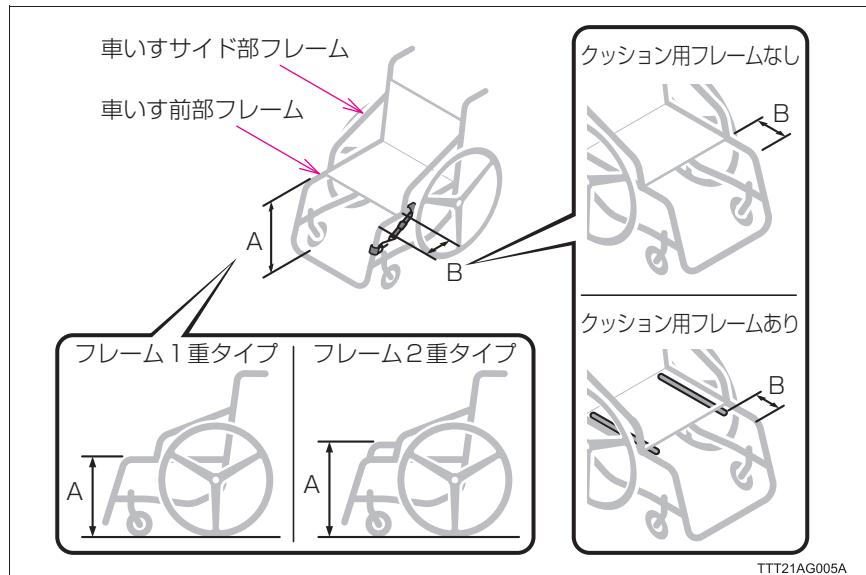
■ 故障を防ぐために

- ワイヤレスリモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ ダッシュボードの上など、直射日光のあたる場所および高温になるところに置かない
 - ・ 分解しない
 - ・ 落としたり、踏むなどの強い衝撃を与えない
 - ・ 飲み物などをこぼしたり、水たまりなど、水中に落下させない
(防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください)
- ワイヤレスリモコンの清掃にシンナー、ガソリン、ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

車内外に乗降するときは

車いすの目安

■ 移乗ボードを使用して移乗するとき（タイプII／タイプIV）



部位	寸法*
車いす前部フレーム	直径 12 ~ 35mm
車いすサイド部フレーム	直径 12 ~ 35mm
A	400mm 以上
B	70mm 以上

* 各寸法は車いすに移乗ボードのツメを確実にかけるために必要になります。

■ 車いすを車内に格納するとき（タイプI／タイプII）

車いすは車内に搭載可能な軽量折りたたみ式の車輪径 22 インチ以下のものをおすすめします。

■ 車いすをウェルキャリーに格納するとき（タイプIII／タイプIV）

P. 79 の「搭載可能な車いすの目安」をご確認ください。

⚠️ 警告

■車内外に移乗するときは

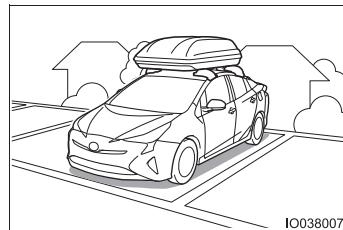
必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、ハイブリッドシステムを停止して平坦で段差や突起物のない場所で行い、凍結路などすべりやすい路面での乗降をしないでください。バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。

■車いすを車内に格納する前に（タイプI／タイプII）

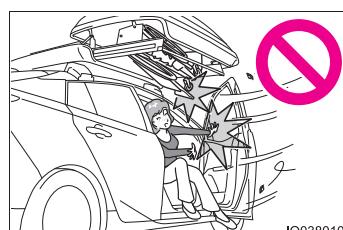
- 必ず助手席シートおよびリヤシートに乗員がいないことを確認してください。助手席シートおよびリヤシートに乗員がいる状態で車いすを格納すると、車いすが他の乗員にあたり、けがをするおそれがあります。
- 車いすを格納する前に、必ずリヤシートが折りたたまれていないことを確認してください。リヤシートが折りたたまれた状態で車いすを格納すると、車いすをシートで固定することができず、急ブレーキをかけたときなどに車いすが動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■車いすをウェルキャリーに格納する前に（タイプIII／タイプIV）

- 平坦で段差や突起物のない場所で乗降およびウェルキャリーの操作を行ってください。バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。



- 強風時はウェルキャリーを作動させないでください。ドアが不意に閉まり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ウェルキャリーを使用する前に（タイプIII／タイプIV）

→ P. 81

 **注意****■故障・破損を防ぐために**

- リモコン式専用運転席パワーシートは昇降能力 100kg をこえないようにしてください。
リモコン式専用運転席パワーシートが故障するおそれがあります。
(タイプII／タイプIV)
- 移乗ボードは許容荷重内（許容荷重 100kg）で使用してください。
(タイプII／タイプIV)
- 車いすを格納する前に、必ず車いすを格納するスペースにものが置かれていないうことを確認してください。
ものが置かれた状態で車いすを格納すると、車いすやものが動き、損傷するおそれがあります。また、車いすの格納が困難になります。(タイプI／タイプII)
- 車いすを格納する前に、コンソールボックスのフタを閉めておいてください。
フタが開いたまま車いすを格納すると、車いすとフタがあたり、破損するおそれがあります。(タイプI／タイプII)
- 車いすを格納する前に、必ずリヤシートが折りたたまれていないことを確認してください。
リヤシートが折りたたまれた状態で、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれをうしろ側に倒すと、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれとリヤシートが干渉し、破損するおそれがあります。また、リモコン式専用運転席パワーシートの中折れ式シートバック機構の故障につながるおそれがあります。(タイプII／タイプIV)
- 車いすを出し入れするときは、車内の部品などにあてないよう注意してください。
車内の部品が破損するおそれがあります。(タイプI／タイプII)
- 強風時はウェルキャリーを作動させないでください。
ウェルキャリーやドアを破損するおそれがあります。(タイプIII／タイプIV)

 **注意**

■ ウェルキャリーに搭載可能な車いすについて（タイプIII／タイプIV）

→ P. 83

■ ウェルキャリーを長期間使用しないときは（タイプIII／タイプIV）

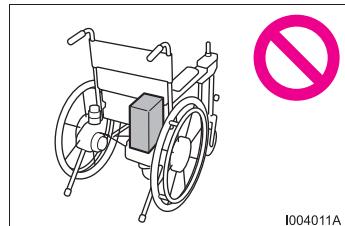
→ P. 83

■ ウェルキャリーを使用する前に（タイプIII／タイプIV）

→ P. 83

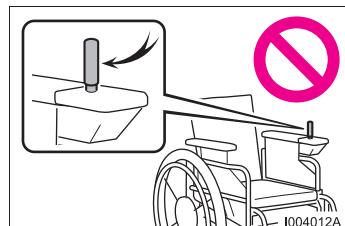
■ 電動車いすをご使用の方へ（タイプIII／タイプIV）

- ウェルキャリーに電動車いすを格納する場合は、必ず電動車いすのバッテリーを取りはずしてください。
バッテリーがはずれて落下したり、不意に車いすが動き出しウェルキャリーや車いすを破損させるおそれがあります。



- 電動車いすのバッテリーは高温にならない場所に保管してください。
バッテリーの劣化が促進されます。（詳しくは電動車いすの取扱説明書を参照してください）

- 電動車いすは、左側に自操用操作部（ジョイスティックなど）があるタイプをウェルキャリーに格納しないでください。
自操用操作部を破損させるおそれがあります。



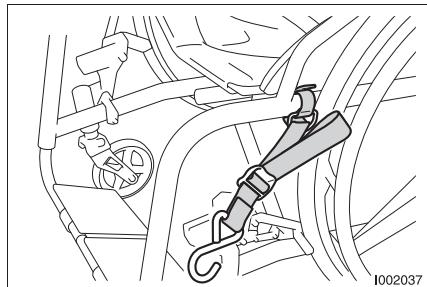
- 電動車いすは、自操用操作部が右側にあり、容易にはずれないタイプをご使用ください。
格納時にはずれ、自操用操作部を破損させるおそれがあります。

車いす固定用ストラップ（タイプII／タイプIV）

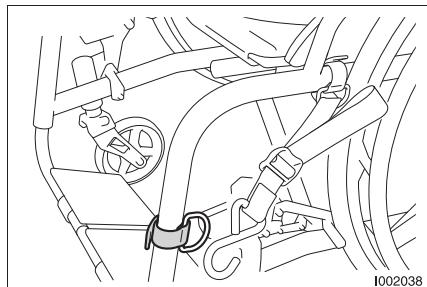
車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗するとき、車いすが動かないようにするためのストラップです。次の場所を目安にして、車いすに取り付けてください。

車いすへの車いす固定用ストラップの取り付け

- ① 車いす固定用ストラップ（フック付き）を車いすのサイド部左側フレームの、ストラップが前方に動かない場所に通し、面ファスナーで確実に固定する

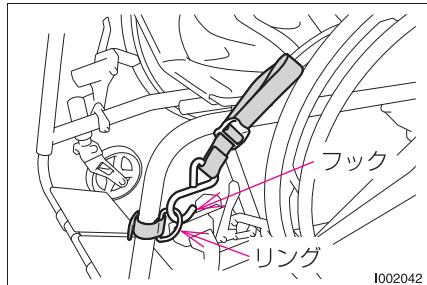


- ② 車いす固定用ストラップ（リング付き）を車いすの前部左側フレームに通し、面ファスナーで確実に固定する



車いす固定用ストラップ使用後は

車いす固定用ストラップのフックを、車いすに取り付けたリングに引っかける



⚠️ 警告

■車いす固定用ストラップを車いすに取り付けるときは

必ず車いすのサイド部左側フレームの、車いす固定用ストラップが前方に動かない場所に通してください。

移乗中に車いす固定用ストラップが動くと、車いすが動き、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗するときは

車いす固定用ストラップをセットしてから、必ず車いすのブレーキを両輪ともかけてください。

移乗中に車いすが動き、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

車内外への乗降および車いすの格納（タイプI）

車内に乗車および車いすを格納するときは

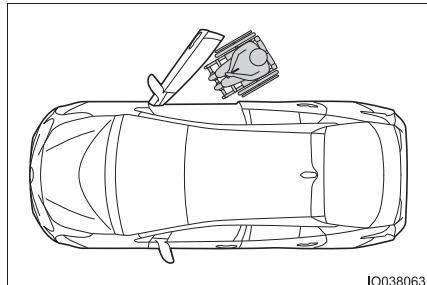
1 操作前に、次のことを確認する

- ・パーキングブレーキがかかっていること
- ・シフトポジションがPになっていること
- ・ハイブリッドシステムが停止していること
- ・平坦で段差や突起物のない場所であること
- ・助手席シートおよびリヤシートに乗員がいないこと
- ・車いすを格納するスペースにものが置かれていないこと
- ・コンソールボックスのフタが閉まっていること
- ・リヤシートが前倒しされていないこと

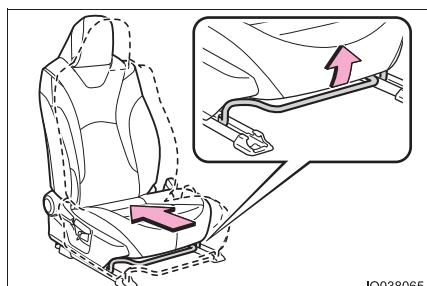
2 運転席ドアを全開にする

3 車いすを運転席シートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

運転席シートを操作できる位置まで車いすを近付けます。



4 運転席シートのスライドレバーを引き上げたまま、運転席シートをいちばんうしろまで移動させる



5 車いすから運転席シートに移乗する

- 6** 操作ストラップを引き、助手席シートの背もたれを前側に倒す



- 7** 左手で助手席シートの背もたれを持ち、右手で助手席シートのスライドレバーを引き上げたまま、両手で助手席シートをいちばん前まで移動させる



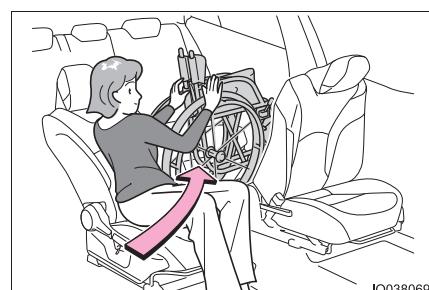
- 8** 運転席シートのリクライニングレバーを引き、運転席シートの背もたれをうしろ側に倒す



- 9** 車いすを折りたたみ、車いすのブレーキを両輪とも解除する

- 10** 折りたたんだ車いすを持ち上げ、助手席シートのうしろに格納する

車いすは助手席シートとリヤシートのあいだに置きます。



- 11** 運転席シートの背もたれを前側に起こす

- 12** 運転席ドアを閉める

- 13 助手席シートの背もたれをうしろ側に起こし、前後位置を調整する
車いすを前後左右にゆすり、車いすが動かないことを確認します。
- 14 運転席シートを運転に適した位置に調整する（→標準車取扱書の「フロントシート」、「安全なドライブのために」）
- 15 シートベルトを着用する（→標準車取扱書の「シートベルト」）

■ 車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

- 1 安全で平坦な場所に停車する
パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、シートベルトをはずす
- 3 P. 38 の「車内に乗車および車いすを格納するときは」の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する



警告

■ 車いすを格納したときは

助手席シートの背もたれを必ず起こした状態にし、前後位置を調整し、車いすが確実に格納され、運転のさまたげにならないことを確認してください。
確実に格納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに車いすが動き、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

リモコン式専用運転席パワーシートでの車内外への乗降および車いすの格納（タイプⅡ）

車内に乗車および車いすを格納するときは

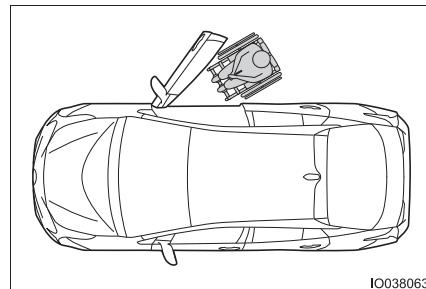
① 操作前に、次のことを確認する

- ・パーキングブレーキがかかっていること
- ・シフトポジションがPになっていること
- ・ハイブリッドシステムが停止していること
- ・平坦で段差や突起物のない場所であること
- ・助手席シートおよびリヤシートに乗員がないこと
- ・車いすを格納するスペースにものが置かれていないこと
- ・コンソールボックスのフタが閉まっていること
- ・リヤシートが前倒しされていないこと

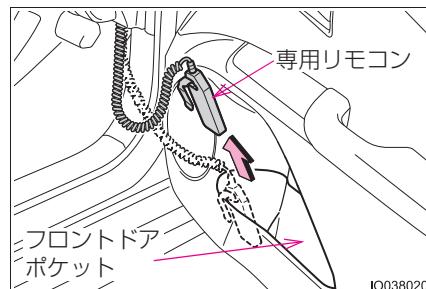
② 運転席ドアを全開にする

③ 車いすをリモコン式専用運転席パワーシートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

専用リモコンが取り出せる位置まで車いすを近付けます。

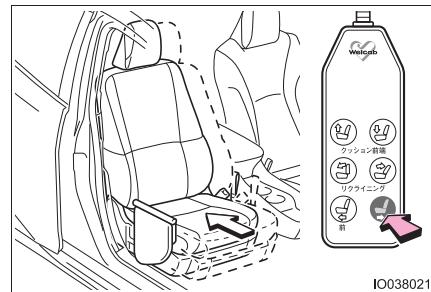


④ 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットから取り出す



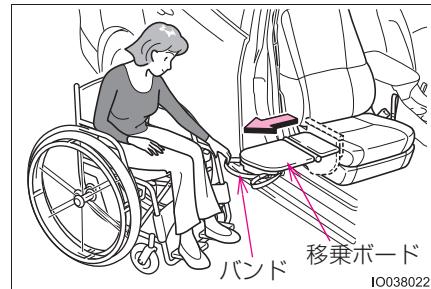
- 5** 専用リモコンの「後」スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートをいちばんうしろまで移動させる

リモコン式専用運転席パワーシートの後方スライドが停止したら、スイッチから指を離します。



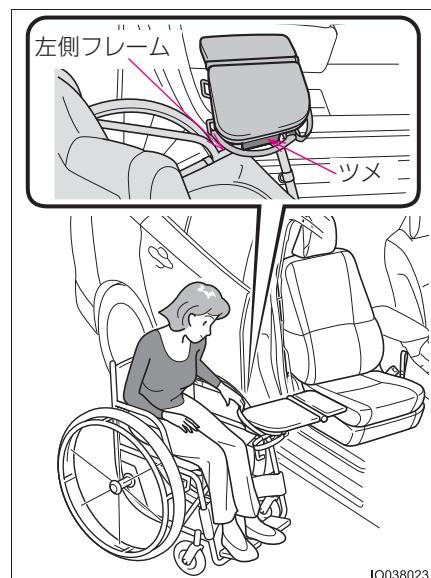
- 6** 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する
(→ P. 23)

- 7** バンドを引っ張り、移乗ボードを伸ばす



- 8** 車いすのブレーキを両輪とも解除する

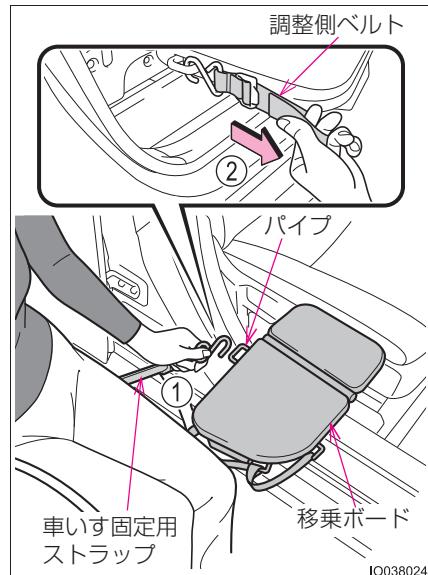
- 9** 車いすのサイド部左側フレームに移乗ボード裏面のツメを確実にかける



10 移乗中に移乗ボードが車いすからはずれないようにする

① 車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプにかけます

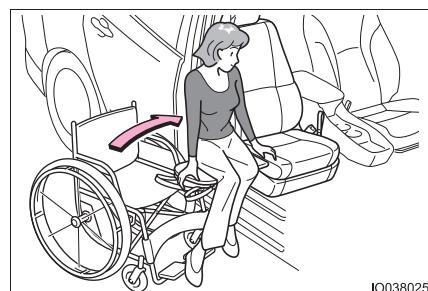
② 調整側ベルトを引っ張ります



11 車いすのブレーキを両輪ともかける

12 移乗ボードの上を通って車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する

- ・ 移乗ボードの中央付近に手をつき、すべらないように注意しながら移乘します。
- ・ 専用リモコンのコードに引っかかるないように注意しながら移乘します。



13 操作ストラップを引き、助手席シートの背もたれを前側に倒す

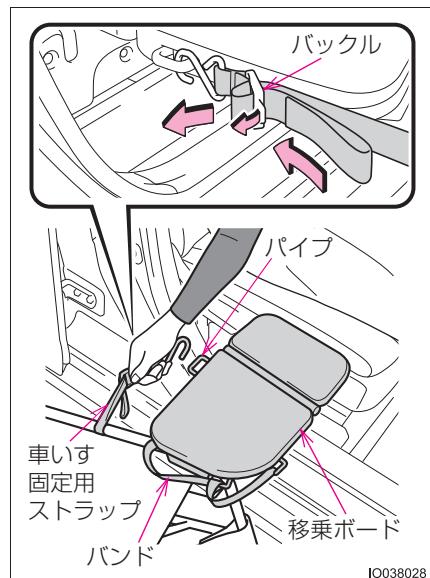


- 14 左手で助手席シートの背もたれを持ち、右手で助手席シートのスライドレバーを引き上げたまま、両手で助手席シートをいちばん前まで移動させる



IO038027

- 15 車いす固定用ストラップのバックルを引き上げ、車いす固定用ストラップをゆるめ、車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプからはずす



IO038028

- 16 移乗ボードのバンドを持ち、移乗ボード裏面のツメ (→ P. 42) を車いすのサイド部左側フレームからはずす

移乗ボードはボデーにゆっくりと置いてください。

- 17 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットから取り出す
(→ P. 41)

- 18** 専用リモコンの「リクライニング」後方スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれをうしろ側に倒す

リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれがリヤシートにあたらない位置まで、背もたれを倒します。



IO038029

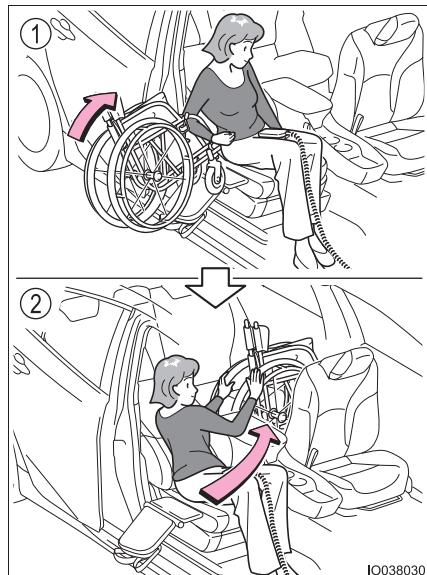
- 19** 車いすを折りたたみ、車いすのブレーキを両輪とも解除する

- 20** 車いすを車内に格納する

① 移乗ボードに車いすの前輪を乗せ、車いすの後輪を移乗ボードに乗せながら車内に引き込みます

② 車いすは助手席シートとリヤシートのあいだに置きます

専用リモコンが体から離れないように注意してください。



IO038030

- 21** 専用リモコンの「リクライニング」前方スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれを前側に起こす



IO038031

[22] 移乗ボードのバンドを持ち、移乗ボードを格納する

- ① 移乗ボードを格納状態に折りたたみ、移乗ボード（バンド付き側）を上に持ち上げながら、水平方向に仮固定します
- ② 移乗ボードの下側をシート方向に押し、確実に固定します
- ③ 格納後、シート外方向に移乗ボードを押し、移乗ボードが開かないことを確認します



IO038032

[23] 運転席ドアを閉める

[24] 助手席シートの背もたれをうしろ側に起こし、前後位置を調整する

車いすを前後左右にゆすり、車いすが動かないことを確認します。

**[25] リモコン式専用運転席パワーシートを運転に適した位置に調整する
（→ P. 69, 74 および標準車取扱書の「安全なドライブのために」）**

**[26] 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する
（→ P. 23）**

専用リモコンはフロントドアポケット以外に収納しないでください。

[27] シートベルトを着用する（→標準車取扱書の「シートベルト」）

車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

[1] 安全で平坦な場所に停車する

パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。

[2] ハイブリッドシステムを停止し、シートベルトをはずす

[3] P. 41 の「車内に乗車および車いすを格納するときは」の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する

 知識

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する前に

運転席ドアを全開できるスペースが確保されていること、および周辺に障害物がないことを確認してください。

運転席ドア付近に他の車を駐車されると、車両に乗降できなくなります。

■リモコン式専用運転席パワーシートの作動条件について

→ P. 71

■専用リモコンについて

→ P. 24

■リモコン式専用運転席パワーシートの作動について

→ P. 71

 警告

■車いす固定用ストラップを車いすに取り付けるときは

→ P. 37

■移乗ボードを展開・格納するときは

移乗ボードを展開・格納するときは、バンドを持って操作してください。
バンド以外の場所（ヒンジ部など）を持つと、指などを挟み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠️ 警告

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する前に

- 必ず移乗ボードを前後左右にゆすり、移乗ボードが車いすからはずれないことを確認してください。

移乗ボードが確実にセットされていない状態で車いすからリモコン式専用運転席パワーシートへの移乗を行うと、移乗中に移乗ボードがはずれ、移乗ボードから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 移乗ボード裏面のツメが車いすのサイド部左側フレームに確実にかかっていること、および車いすが車いす固定用ストラップで確実に固定されていること（車いす固定用ストラップのフックが移乗ボードのパイプに確実にかかっていること）を確認してください。

- ツメが車いすのサイド部左側フレームに確実にかかっていないと、移乗するときに移乗ボードがはずれ、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすが車いす固定用ストラップで確実に固定されていないと、移乗するときに車いすが動き、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。移乗する前に車いす固定用ストラップにたるみがないこと、およびフックが移乗ボードのパイプに確実にかかっていることを必ず確認してください。

- 必ず車いすのブレーキを両輪ともかけてください。

移乗するとき、車いすが動いて転倒するおそれがあり危険です。

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗するときは

- 移乗ボードには、いきおいよく乗り移らないでください。

移乗ボードが損傷し、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 車いすにセットした状態以外で、移乗ボードの上に乗らないでください。

移乗ボードや他の部品が損傷したり、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■強風時の運転席ドアについて

強風時、運転席ドアがいきおいよく閉まることがあります。

車いすからリモコン式専用運転席パワーシートへ移乗中、運転席ドアがあたるおそれがありますので、注意してください。

警告

■車いすを格納したときは

→ P. 40

■移乗ボードを格納したときは

- 大腿部などを挟み込んでいないか、手を添えて確認してください。
挟まれたまま気が付かずにいると、大腿部などを圧迫するおそれがあります。
- 移乗ボードを格納した状態で移乗ボードの外側に手を垂らしたり、移乗ボードの外側に手を置いた状態で、運転席ドアを閉めないでください。
手を移乗ボードと運転席ドアのあいだに挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■専用リモコンを収納するときは

→ P. 24

注意

■専用リモコンの取扱いについて

→ P. 25

■専用リモコンを収納するときは

→ P. 25

■運転席ドアを閉める前に

移乗ボードを確実に格納してください。

- 移乗ボードが倒れている状態で運転席ドアを閉めると、ドア内側トリムボードおよび移乗ボードを損傷するおそれがあります。
- 移乗ボードが格納されていない状態でリモコン式専用運転席パワーシートを後方へスライドさせると、移乗ボードがドア開口部にあたり損傷するおそれがあります。

■運転席ドアを閉めるときは

専用リモコンやコードを運転席ドアに挟み込まないよう注意してください。
専用リモコンが破損したり、コードが断線するおそれがあります。

車内外への乗降および車いすの格納（タイプIII）

ワイヤードリモコンを使用して、車いすをウェルキャリーに格納します。
(ワイヤレスリモコンでも、同様の操作が行えます)

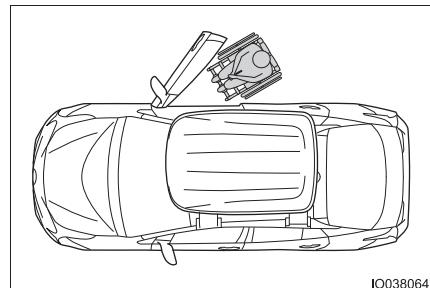
車内に乗車および車いすを格納するときは

- 1** 操作前に、次のことを確認する
 - ・パーキングブレーキがかかっていること
 - ・シフトポジションが P になっていること
 - ・ハイブリッドシステムが停止していること
 - ・平坦で段差や突起物のない場所であること
 - ・運転席ドアが全開および運転席側リヤドアが全閉であること
 - ・車両右側および上方に十分なスペースがあること（→ P. 81）

- 2** 運転席ドアを全開にする

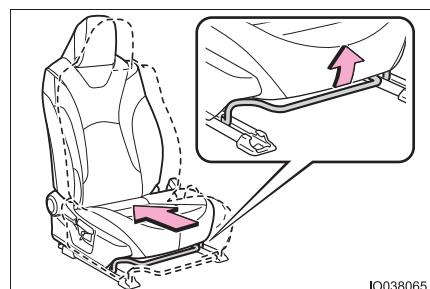
- 3** 車いすを運転席シートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

運転席シートが操作できる位置まで車いすを近付けます。



IO038064

- 4** 運転席シートのスライドレバーを引き上げたまま、運転席シートをいちばんうしろまで移動させる

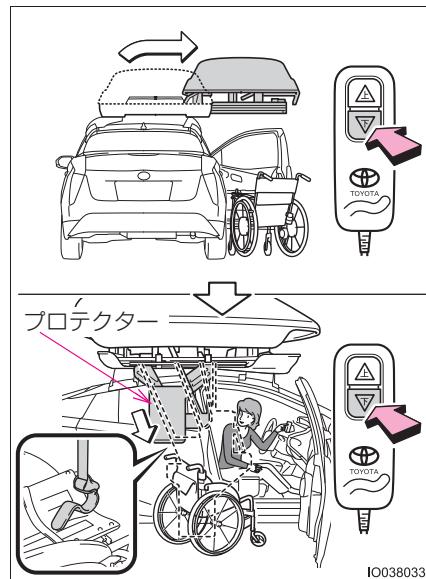


IO038065

- 5** 車いすから運転席シートに移乗する

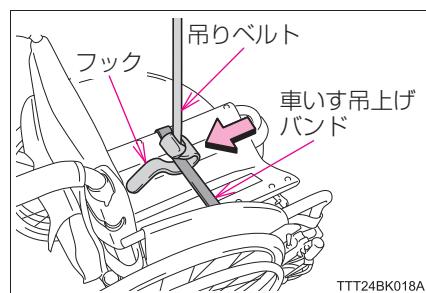
6 ワイヤードリモコンの振出スイッチを押し続け、車いす吊上げバンドに吊りベルトのフックをかけられる位置まで下降させる

- ユニット全体が右側にスライドし、下降前にいったん停止しますので、もう一度ワイヤードリモコンの振出スイッチを押し続けます。
- 下降時、プロテクターが車いすにあたらないように車いすを移動させます。



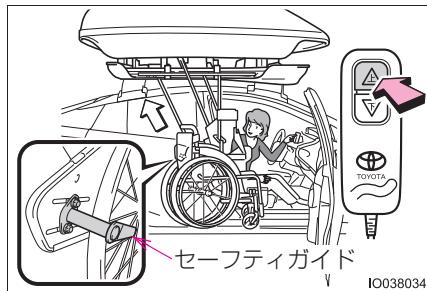
7 吊りベルトのフックを車いす吊上げバンドに前側からかける

吊りベルトのフックを車いす吊上げバンドにかけられる位置になるように、車いすの位置を調整し、フックが車いす吊上げバンドに前側から確実にかかっていることを確認します。



- 8** ワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け、車いすを吊り上げる

車いすに手を添え、車いすの後輪がプロテクターのセーフティガイド内に収まっていることを確認します。



- 9** さらにワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け、車いすを格納する

“ピピッ”とブザーが鳴ったことを確認します。

- 10** 運転席ドアを閉める

- 11** 運転席シートを運転に適した位置に調整する

(→標準車取扱書の「フロントシート」、「安全なドライブのために」)

- 12** シートベルトを着用する (→標準車取扱書の「シートベルト」)

車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

- 1** 安全で平坦な場所に停車する

パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。

- 2** ハイブリッドシステムを停止し、シートベルトをはずす

- 3** P. 50 の「車内に乗車および車いすを格納するときは」の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する

知識

■ ウェルキャリーの作動条件について

→ P. 77

■ ウェルキャリーの作動について

→ P. 27, 78

■ 車いすを格納するときは

→ P. 78

■ 降雨時は

→ P. 78

■ 洗車後や降雨後は

- 洗車後や降雨後は、ウェルキャリーより雨が垂れ、ぬれることがありますので、ドアを閉めた状態でウェルキャリーを外にスライドさせてから運転席ドアを開けてください。（洗車後や降雨後のみ）
- 洗車後や降雨後の走行時、しばらくのあいだウェルキャリーより雨が垂れることがあります。

2

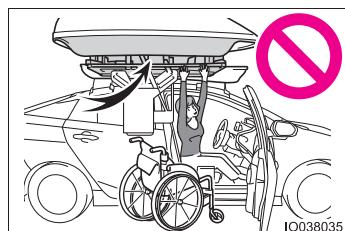
車内外への乗り降り

警告

■ 乗降時のウェルキャリーについて

ウェルキャリーにぶら下がったり、ユニットカバーなどを持たないでください。

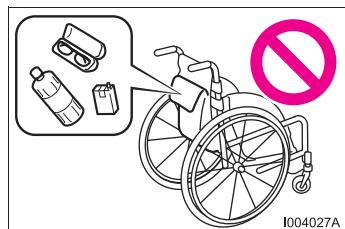
移乗中に転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ 車いすを格納する前に

車いすをウェルキャリーに格納する前に、車いすのポケットなどにものが入っていないことを確認してください。

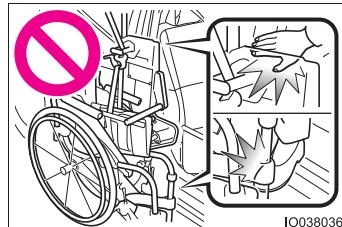
入れたものが落下してけがをするおそれがあり危険です。



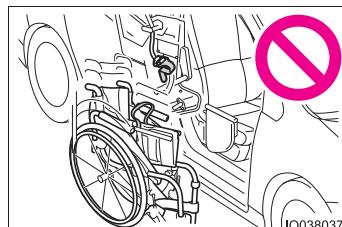
⚠️ 警告

■車いすを格納するときは

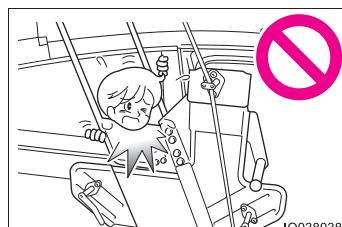
- ウェルキャリーが作動中にウェルキャリーや車いすのすき間などに手足、頭などを入れないでください。
手足、頭などを挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- 車いすを吊り上げる前に、吊りベルトのフックが車いす吊上げバンドにしっかりととかかっていることを確認してください。車いすが不意に落下してけがをするおそれがあり危険です。



- ウェルキャリーはリヤシートの同乗者に注意して作動させてください。同乗者の手や頭を挟まないように、運転席側のリヤドアおよびドアガラスを閉めてご使用ください。
ドアガラスとウェルキャリーとのあいだに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ウェルキャリーを完全格納以外の状態で止めたまま、長時間放置しないでください。

他の人がさわり思わぬけがをするおそれがあり危険です。

■車いす吊上げバンドの取り付け、調整について

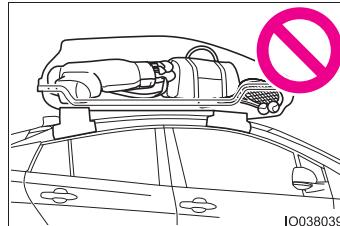
→ P. 84

⚠ 注意

■ 故障・破損を防ぐために

- 車いす以外のものを格納しないでください。

車両が損傷したり、ウェルキャリーが故障するおそれがあります。



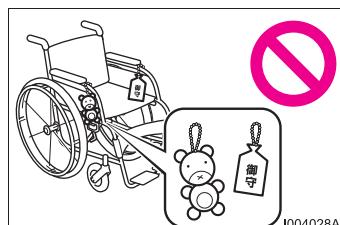
- 車いすをウェルキャリーに格納する前に、車いすのポケットなどにものが入っていないことを確認してください。

入れたものが落下して車両が損傷したり、ウェルキャリーに挟まりウェルキャリーが故障するおそれがあります。



- 車いすをウェルキャリーに格納する前に、車いすに取り付けてあるキーホルダーなどのアクセサリーを取りはずしてください。

ウェルキャリーに引っかかってウェルキャリーが作動しなくなり、ウェルキャリーや車いすが損傷したり、アクセサリーが破損するおそれがあります。



- 車いすに吊りベルトのフックをかける前に、吊りベルトがねじれていいないことを確認してください。

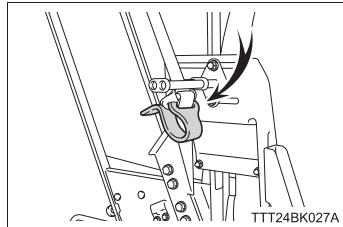
吊りベルトがからまり、ウェルキャリーが作動しなくなったり、ウェルキャリーが損傷するおそれがあります。



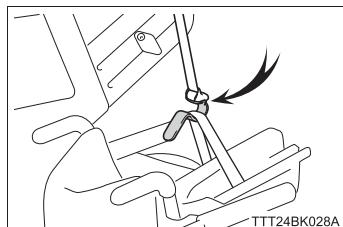
⚠ 注意

■ 故障・破損を防ぐために

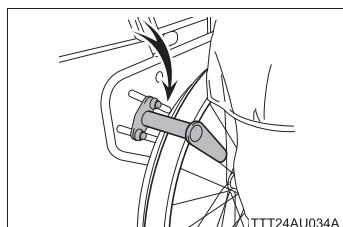
- 車いすを搭載していない状態でウェルキャリーを格納するときは、吊りベルトのフックが正しい位置にあることを確認してください。
正しい位置にないと、ウェルキャリーが故障や破損するおそれがあります。



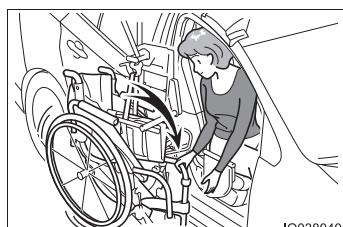
- 車いすに吊りベルトのフックをかけるときは、必ず前側からかけてください。
吊りベルトがねじれウェルキャリーが作動しなくなったり、車いすやウェルキャリーが故障するおそれがあります。



- 車いすを吊り上げるときは、車いすの後輪がセーフティガイド内に確実に収まっていることを確認してください。
車いすの固定がはずれ、車いすやウェルキャリーが損傷するおそれがあります。



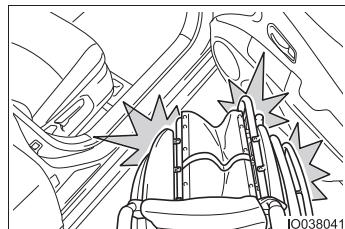
- 車いすが地面から離れているときに、車いすがゆれてボデーにあたるおそれがあります。
 - ・ボデーにあたるおそれがある場合は、作動をいったん停止し、車いすに軽く手を添えてゆれを抑えてください。
 - ・ボデーにあたるおそれがなくなったら作動を再開してください。



⚠ 注意

■故障・破損を防ぐために

- ウエルキャリーにぶら下がったり、ユニットカバーなどを持たないでください。
ウエルキャリーやユニットカバーが損傷するおそれがあります。
- ウエルキャリーが作動中にウエルキャリーや車いすのすき間などに荷物を入れないでください。
荷物を損傷するおそれがあります。
- 車いすを吊り上げる前に吊りベルトのフックが、車いす吊上げバンドにしっかりととかかっていることを確認してください。
車いすが不意に落下し車いすを損傷するおそれがあります。
- ウエルキャリーを完全格納以外の状態で、放置しないでください。
補機バッテリーあがりやウエルキャリーが故障するおそれがあります。
- 連続して何度も作動させないでください。
 - ・ モーターが過熱して、動かなくなることがあります。(モーターが冷えれば、再び作動します)
 - ・ 補機バッテリー電圧が低下しウエルキャリーが作動しなくなったり、ハイブリッドシステムが始動できなくなります。
- 車いすの下降時に車いすとドアのあいだが狭いときは、車いすを広げる操作ができない場合があります。
その場合、もう一度車いすを少し吊り上げ、手で位置を調整しながら降ろしてください。



- 車いすを格納する前に、車いすのタイヤに、空気が十分に入っていることを確認してください。(空気圧は、車いす取扱説明書を参照してください。または車いす販売店へ確認してください)
車いすの固定が不十分になる場合があります。
- ウエルキャリーが作動中に異常を感じたときは、ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチから手を離し作動を停止してください。

リモコン式専用運転席パワーシートでの車内外への乗降および車いすの格納（タイプIV）

ワイヤードリモコンを使用して、車いすをウェルキャリーに格納します。
(ワイヤレスリモコンでも、同様の操作が行えます)

車内に乗車および車いすを格納するときは

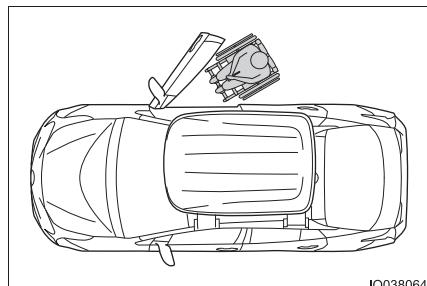
① 操作前に、次のことを確認する

- ・パーキングブレーキがかかっていること
- ・シフトポジションが P になっていること
- ・ハイブリッドシステムが停止していること
- ・平坦で段差や突起物のない場所であること
- ・運転席ドアが全開および運転席側リヤドアが全閉であること
- ・車両右側および上方に十分なスペースがあること（→ P. 81）

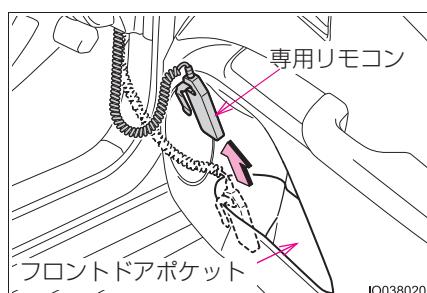
② 運転席ドアを全開にする

③ 車いすをリモコン式専用運転席パワーシートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

専用リモコンが取り出せる位置まで車いすを近付けます。

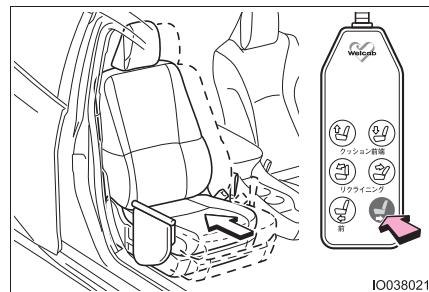


④ 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットから取り出す



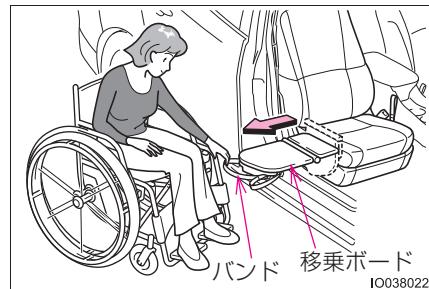
- 5** 専用リモコンの「後」スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートをいちばんうしろまで移動させる

リモコン式専用運転席パワーシートの後方スライドが停止したら、スイッチから指を離します。



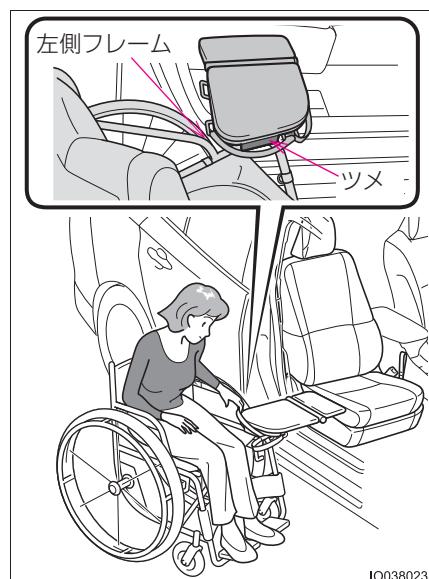
- 6** 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する
(→ P. 23)

- 7** バンドを引っ張り、移乗ボードを伸ばす



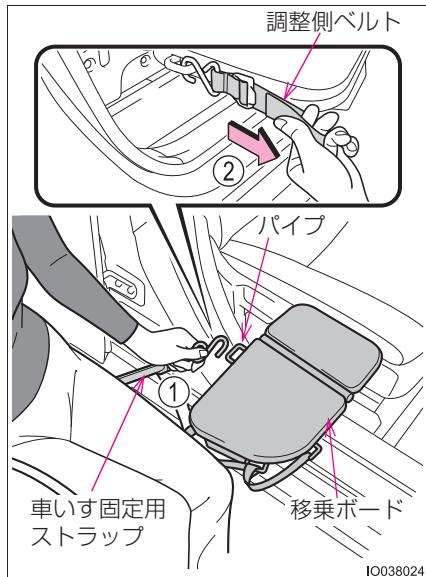
- 8** 車いすのブレーキを両輪とも解除する

- 9** 車いすのサイド部左側フレームに移乗ボード裏面のツメを確実にかける



[10] 移乗中に移乗ボードが車いすからはずれないようにする

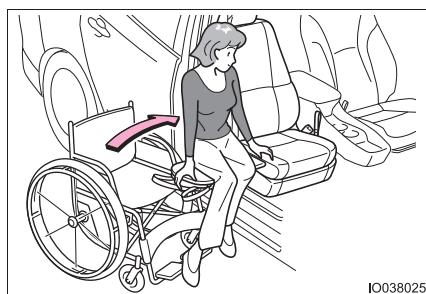
- ① 車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプにかけます
- ② 調整側ベルトを引っ張ります



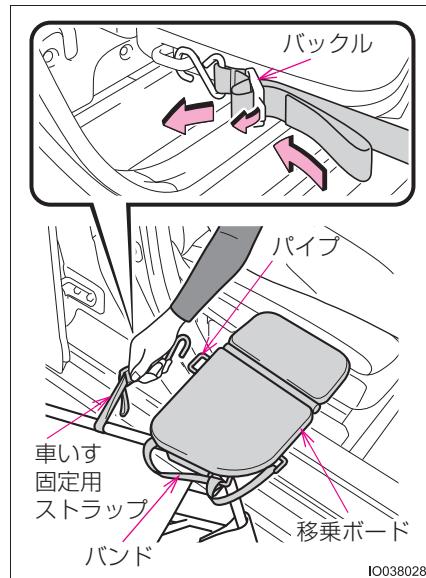
[11] 車いすのブレーキを両輪ともかける

[12] 移乗ボードの上を通って車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する

- ・ 移乗ボードの中央付近に手をつき、すべらないように注意しながら移乘します。
- ・ 専用リモコンのコードに引っかかるないように注意しながら移乘します。



- [13]** 車いす固定用ストラップのバックルを引き上げ、車いす固定用ストラップをゆるめ、車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプからはずす



IO038028

- [14]** 移乗ボードのバンドを持ち、移乗ボード裏面のツメ（→P. 59）を車いすのサイド部左側フレームからはずす

- [15]** 移乗ボードのバンドを持ち、移乗ボードを格納する

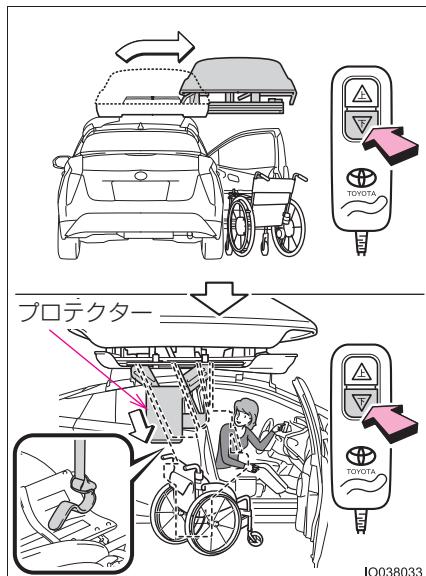
- ① 移乗ボードを格納状態に折りたたみ、移乗ボード（バンド付き側）を上に持ち上げながら、水平方向に仮固定します
- ② 移乗ボードの下側をシート方向に押し、確実に固定します
- ③ 格納後、シート外方向に移乗ボードを押し、移乗ボードが開かないことを確認します



IO038032

[16] ワイヤードリモコンの振出スイッチを押し続け、車いす吊上げバンドに吊りベルトのフックをかけられる位置まで下降させる

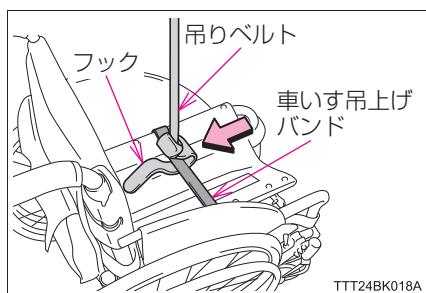
- ユニット全体が右側にスライドし、下降前にいったん停止しますので、もう一度ワイヤードリモコンの振出スイッチを押し続けます。
- 下降時、プロテクターが車いすにあたらないように車いすを移動させます。



IO038033

[17] 吊りベルトのフックを車いす吊上げバンドに前側からかける

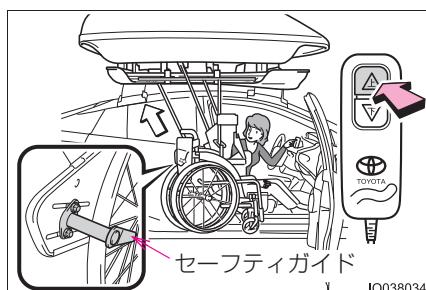
吊りベルトのフックを車いす吊上げバンドにかけられる位置になるように、車いすの位置を調整し、フックが車いす吊上げバンドに前側から確実にかかっていることを確認します。



TTT24BK018A

[18] ワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け、車いすを吊り上げる

車いすに手を添え、車いすの後輪がプロテクターのセーフティガイド内に収まっていることを確認します。



IO038034

- [19]** さらにワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け、車いすを格納する
“ピピッ”とブザーが鳴ったことを確認します。
- [20]** 運転席ドアを閉める
- [21]** 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットから取り出す
(→ P. 58)
- [22]** リモコン式専用運転席パワーシートを運転に適した位置に調整する
(→ P. 69, 74 および標準車取扱書の「安全なドライブのために」)
- [23]** 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する
(→ P. 23)
専用リモコンはフロントドアポケット以外に収納しないでください。
- [24]** シートベルトを着用する (→標準車取扱書の「シートベルト」)

車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

- ① 安全で平坦な場所に停車する**
パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。
- ② ハイブリッドシステムを停止し、シートベルトをはずす**
- ③ P. 58 の「車内に乗車および車いすを格納するときは」の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する**

□ 知識**■ 車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する前に**

→ P. 47

■ リモコン式専用運転席パワーシートの作動条件について

→ P. 71

■ 専用リモコンについて

→ P. 24

■ リモコン式専用運転席パワーシートの作動について

→ P. 71

■ ウエルキャリーの作動条件について

→ P. 77

■ ウエルキャリーの作動について

→ P. 27, 78

■ 車いすを格納するときは

→ P. 78

■ 降雨時は

→ P. 78

■ 洗車後や降雨後は

→ P. 53

⚠ 警告

- 車いす固定用ストラップを車いすに取り付けるときは
→ P. 37
- 移乗ボードを展開・格納するときは
→ P. 47
- 車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する前に
→ P. 48
- 車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗するときは
→ P. 48
- 乗降時のウェルキャリーについて
→ P. 53
- 強風時の運転席ドアについて
→ P. 48
- 車いすを格納する前に
→ P. 53
- 車いすを格納するときは
→ P. 54
- 移乗ボードを格納したときは
→ P. 49
- 専用リモコンを収納するときは
→ P. 24
- 車いす吊上げバンドの取り付け、調整について
→ P. 84

 注意

■ 専用リモコンの取扱いについて

→ P. 25

■ 故障・破損を防ぐために

→ P. 55 ~ 57

■ 専用リモコンを収納するときは

→ P. 25

■ 運転席ドアを閉める前に

→ P. 49

■ 運転席ドアを閉めるときは

→ P. 49

各部の操作／運転

3

3-1. 助手席シート (タイプI／タイプII)	
助手席前倒し機構＆ 操作ストラップ (タイプI／タイプII)	68
3-2. リモコン式専用運転席 パワーシート (タイプII／タイプIV)	
リモコン式専用運転席 パワーシートの調整 (タイプII／タイプIV)	69
ヘッドレスト.....	74
3-3. ウエルキャリー (タイプIII／タイプIV)	
ウエルキャリー (タイプIII／タイプIV)	76
車いす吊上げバンド (タイプIII／タイプIV)	84
3-4. 運転支援装置について 専用パワーステアリング	85
3-5. バックドアの開閉 バックドアストラップ	86

助手席前倒し機構＆操作ストラップ（タイプI／タイプII）

運転席側から助手席シートの背もたれを前側に倒すことができます。

前倒しのしかた

操作ストラップを引く



IO038066

⚠️ 警告

■ 助手席前倒し機構＆操作ストラップについて

助手席前倒し機構＆操作ストラップを他の部品に引っかけたり、挟み込ませないでください。

助手席前倒し機構＆操作ストラップが引っかかれ、背もたれが思わぬ動き（前倒れ）をするおそれがあります。

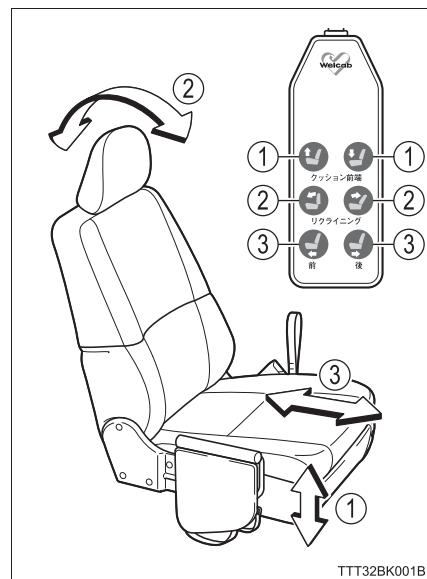
リモコン式専用運転席パワーシートの調整（タイプII／タイプIV）

リモコン式専用運転席パワーシートの調整をするときは、車両を止め、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにした状態で行います。

車両のパワースイッチがONモードでは、パーキングブレーキをかけていないと、リモコン式専用運転席パワーシートの調整はできません。

調整のしかた

- ① クッション前端の高さ調整
- ② リクライニング調整
- ③ 前後位置調整

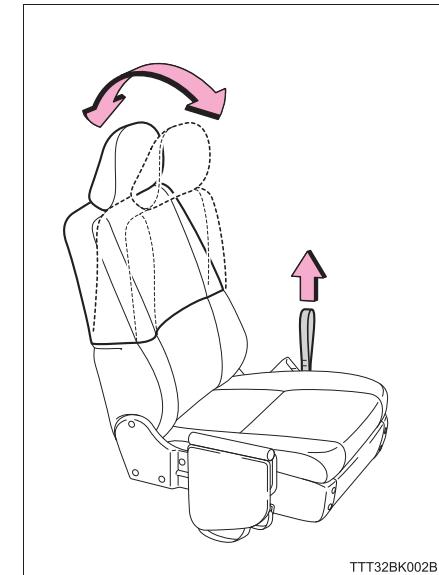


中折れ式シートバック

背もたれの上部 3 分の 2 を前後に倒せます。

シートバック中折れ用ストラップ
を引く

調整後、背もたれを前後左右にゆすり、
確実にロックされていることを確認し
ます。



TTT32BK002B

 知識

■ リモコン式専用運転席パワーシートの作動条件について

○：作動 ×：非作動

車両の パワースイッチ	パーキング ブレーキ	前後位置 調整	リクライニング 調整	クッション 前端の高さ調整
ON モード	かかっている	○	○	○
	解除	×	×	×
ON モード以外	かかっている	○	○	○
	解除	○	○	○

■ 専用リモコンについて

→ P. 24

■ リモコン式専用運転席パワーシートについて

リモコン式専用運転席パワーシートは標準車のシートとは異なります。リクライニング角度（フルリクライニングはできません）、シートバック角度、シート前後スライド量は標準車とは異なります。また、SRS サイドエアバッグも装着されません。

運転前に必ず正しい運転姿勢がとれるか確認してください。

（正しい運転姿勢→標準車取扱書の「安全なドライブのために」）

■ リモコン式専用運転席パワーシートの前後スライド量について

前後に合計 180mm 移動することができます。

■ リモコン式専用運転席パワーシートの作動について

- 走行中はリモコン式専用運転席パワーシートの調整ができません。
- リモコン式専用運転席パワーシートを操作中に作動が停止した場合は、専用リモコンのスイッチから指を離し、再度スイッチを押してください。
- 連続して何度もリモコン式専用運転席パワーシートの操作を行うと、モーターが過熱して作動しなくなることがあります。この場合は、10 分以上待ってから再度操作してください。
- 補機バッテリー電圧が低下している状態では、リモコン式専用運転席パワーシートの作動速度が遅くなります。

⚠️ 警告

■ リモコン式専用運転席パワーシートの調整について

- リモコン式専用運転席パワーシートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- リモコン式専用運転席パワーシートの側面や下部および動いている部分に手などを近付けないでください。
指や手などを挟み、けがをするおそれがあります。
- 前後位置調整するときは、手足を挟まれないか注意しながら行ってください。
特に感覚のない足が挟まれたまま気付かずにいると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートバック中折れ用ストラップが他の部品に引っかかっていないことを確認してください。また、シートバック中折れ用ストラップを他の部品に引っかけたり、挟み込ませないでください。
シートバック中折れ用ストラップが引かれ、背もたれが思わぬ動き（前倒れ）をするおそれがあります。

■ 走行中は

- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- リモコン式専用運転席パワーシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとリモコン式専用運転席パワーシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因にもなります。

 **注意****■故障・破損を防ぐために**

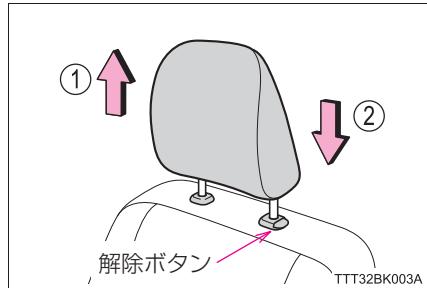
- 専用リモコンを使用してリモコン式専用運転席パワーシートの調整を行うときは、作動が完了したらスイッチから指を離してください。
リモコン式専用運転席パワーシートの故障の原因になります。
- リヤシートが折りたたまれた状態でリモコン式専用運転席パワーシートの背もたれをうしろ側に倒すときは、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれがリヤシートにあたらないことを確認しながら行ってください。
リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれとリヤシートがあたったままリモコン式専用運転席パワーシートの背もたれをうしろ側に倒す操作を続けると、シートが破損するおそれがあります。また、中折れ式シートバック機構の故障につながるおそれがあります。

ヘッドレスト

リモコン式専用運転席パワーシートのヘッドレストは、次のように操作します。

- ① 上げる
- ② 下げる

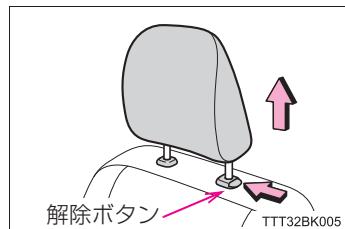
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

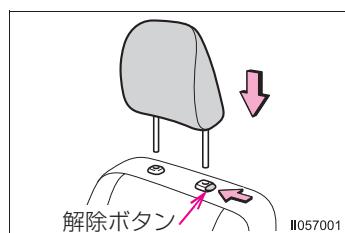
解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ヘッドレストを取り付けるときは

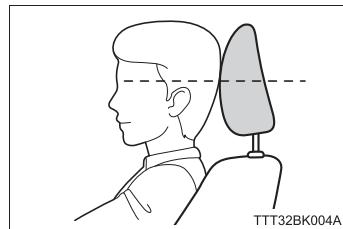
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるように調整してください。



▲警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

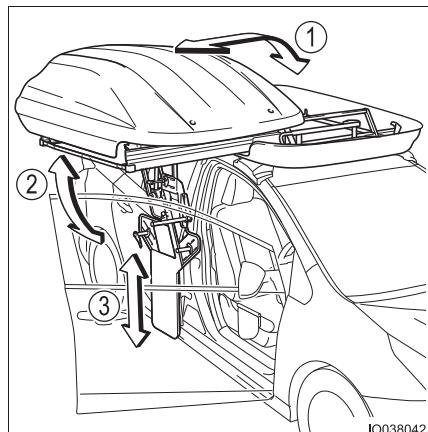
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ウェルキャリー（タイプIII／タイプIV）

ワイヤードリモコンを使用して、ウェルキャリーを振出・格納させ、車いすをウェルキャリーに格納することができます。
(ワイヤレスリモコンでも、同様の操作が行えます)

作動のしかた

- ① スライド
- ② 回転
- ③ 上昇・下降



夜間照明灯

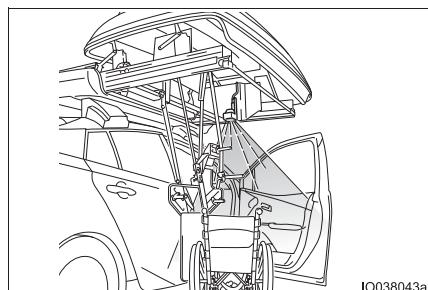
ウェルキャリーを振出すと点灯し、次のいずれかの状態で消灯します。

- 完全格納
- 何も操作せず約20分経過

振出スイッチまたは格納スイッチを押すと再点灯します。

- パワースイッチがONモードまたはパーキングブレーキを解除

ウェルキャリーの作動条件をすべて満たすと再点灯します。



■ 知識

■ ウエルキャリーの作動条件について

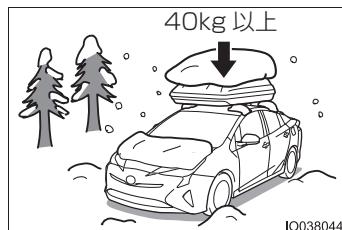
○：作動 ×：非作動

車両の パワースイッチ	パーキング ブレーキ	振出作動	格納作動
ON モード	かかっている	×	×
	解除	×	×
ON モード以外	かかっている	○	○
	解除	×	×

車両のパワースイッチが ON モード以外、かつパーキングブレーキがかかっている場合のみ作動します。それ以外は作動しません。

■ 保護機能について

ウェルキャリー破損防止のため、完全格納状態から作動させる場合は、ユニットカバー上に異常荷重（40kg 以上）がかかると、作動条件をすべて満たしていても保護機能が働き、ウェルキャリーは作動しません。



■ ウエルキャリーについて

- ルーフ上のウェルキャリー内部に手が届かない方は、P. 103～105 の故障時の緊急格納作業ができません。
故障時はトヨタ販売店または専門業者に P. 103 「スイッチを押してもウェルキャリーが作動しないとき」の操作をご依頼ください。
- ウェルキャリーを作動させる前に、必ず車両のパワースイッチをONモード以外にし、パーキングブレーキをかけてください。そうしないとウェルキャリーは作動できません。
- ウェルキャリーを完全格納しても、ハイブリッドシステムが始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
- 補機バッテリーがあがってしまうとウェルキャリーの操作ができなくなります。

□ 知識

■車いすを格納するときは

ワイヤードリモコンの格納スイッチを、“ピピッ”というブザーが鳴るまで押し続けて完全格納してください。ウェルキャリーが完全格納されていないときは、ハイブリッドシステムを始動できません。

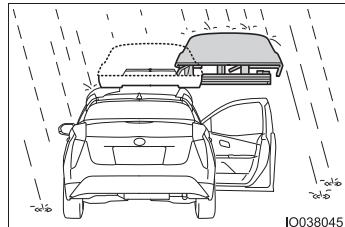
その場合、マルチインフォメーションディスプレイに、「始動時はブレーキを踏みながらパワースイッチを押してください」との表示が出ますので、ウェルキャリーを完全格納してください。（“ピピッ”というブザーが鳴れば完全格納状態）

■ウェルキャリーの作動について

ウェルキャリーが作動中、障害物にあたるなどして、ウェルキャリーの作動がさまたげられると、“ピピピッ”とブザーが鳴り、ウェルキャリーは少し反転して停止します。この場合、障害物を取り除くなどしたあと、ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押すと正常な作動にもどります。

■降雨時は

ウェルキャリーを外にスライドさせると、傘がわりになり、移乗時、雨にぬれにくくなります。



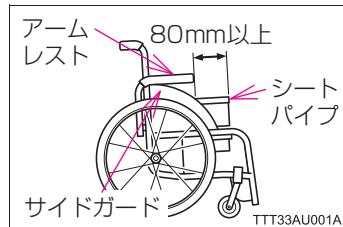
■ 知識

■ 搭載可能な車いすの目安

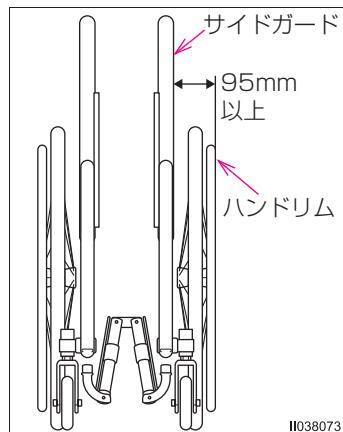
- 搭載可能な車いすは次のサイズのものになります。

大車輪径	全高	全長	折りたたみ幅	重量
20～24 インチ	870mm 以下	960mm 以下	390mm 以下	28kg 以下

- シートパイプ前端から 80mm 以上のスペースが確保されていることを確認してください。シートパイプ前端から 80mm 以内にアームレストやサイドガード、自操用操作部（ジョイスティックなど）がある車いすは、上表のサイズであっても格納できません。



- ハンドリムからサイドガードまで 95mm 以上のスペースが確保されていることを確認してください。



- 上記のサイズであっても車いすによっては格納できないものがあります（→ P. 35）。車いすを新規にご購入される場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 移乗可能な車いすの目安はウエルキャリーに搭載可能な車いすの目安とは異なります。（→ P. 32）

 知識

■ ブザー音について

- 動作や状況に応じて次のようにブザーが鳴ります。

ブザー音		動作・状況
ピーッ		ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンのスイッチを押して、ウェルキャリーが作動するとき
ピッ…ピッ…*		ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンのスイッチを押して、ウェルキャリーが作動中のとき
ピピッ		ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンの振出スイッチを押して、ウェルキャリーが振出中にいったん停止するとき
警 告 時	ピッピッピッ…	ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンの格納スイッチを押して、ウェルキャリーが完全格納したとき、または完全格納状態で格納スイッチを押したとき
	ピピピッ	ウェルキャリーが完全格納されていない状態で、車両のパワースイッチをONモードにしたとき

* スイッチを押しているあいだ、鳴り続けます。

- ブザー音が連続になった場合は故障の可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠️ 警告

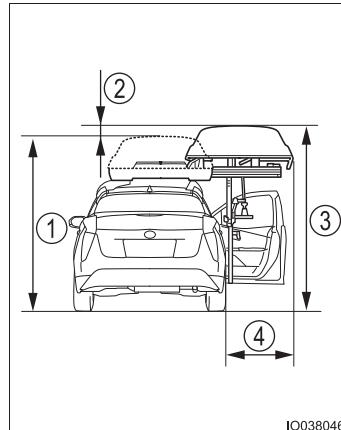
■ ウエルキャリーを使用する前に

- 走行状態の全高は FF 車：2020mm、4WD 車：2025mm になります (①)。高架下や立体駐車場など高さ制限のあるところを走行する場合は、高さに注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 作動時にはウエルキャリーが 120mm 持ち上がり (②)、全高が FF 車：2140mm、4WD 車：2145mm になります (③)。作動させる前に、十分な高さがあることを確認してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ウエルキャリーは車両右側に 795mm スライドします (④)。隣の車や建物などに注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

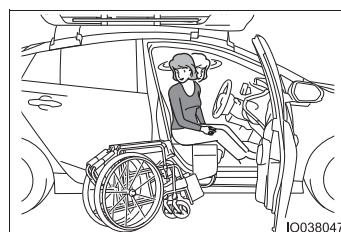
* 各寸法値は設計値を示します。実測値は若干異なることがあります。

- ウエルキャリーを作動させる前に、歩行者や自転車、バイクなど後続車に注意してください。
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ウエルキャリーを作動させる前に、周囲に人がいないことを確認してください。
ウエルキャリーやボデーのすき間に、頭や手などを挟み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、夜間は特に見えにくくなるため、注意して操作を行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



IO038046



IO038047

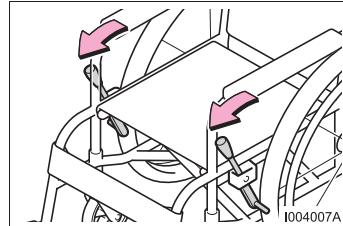
⚠ 警告**■ ウエルキャリーを使用する前に**

- お子さまやウェルキャリーの操作を理解されていない方には、ウェルキャリーの操作をさせないでください。

ウェルキャリー可動部に挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 格納する前に、必ず車いすのブレーキを両輪ともかけてください。

車いすを降ろしたときに、車いすが動き出し、けがをするおそれがあります。



⚠ 注意

■ ウエルキャリーに搭載可能な車いすについて

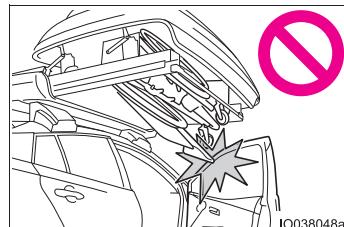
- 搭載可能な車いすの最大重量は 28kg です。
28kg 以下の車いすをご使用ください。
- 所定サイズ以外の車いすを格納しないでください。
車いすを傷付けたり、ウェルキャリーを破損させるおそれがあります。
(→ P. 79)

■ ウエルキャリーを長期間使用しないときは

車いすをウェルキャリーに搭載したままにしないでください。
車いすが変形するおそれがあります。

■ ウェルキャリーを使用する前に

ウェルキャリーを作動させる前に、運転席ドアを全開にしてください。
車いすやウェルキャリーで運転席ドアを傷付けるおそれがあります。



IO038048a

■ 走行中は

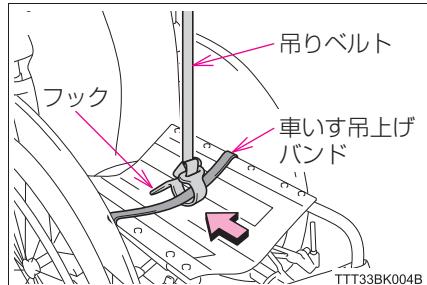
強風（横風）時や急カーブ、不整地などの走行時は、スピードを抑えて安全運転をしてください。(→ P. 19)

車いす吊上げバンド（タイプIII／タイプIV）

ウェルキャリーに車いすを格納するときの、車いすを吊り上げるためのバンドです。

吊りベルトのフックを前側からかける

イラストは取り付け例です。



知識

■車いす吊上げバンドについて

長さの異なるバンドが3本同梱されています。格納する車いすに合わせてお選びください。

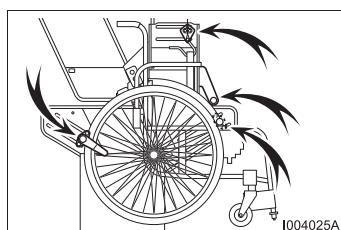
残りのバンドは、異なるサイズの車いすにかえたときのために保管してください。
長さが合わない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

警告

■車いす吊上げバンドの取り付け、調整について

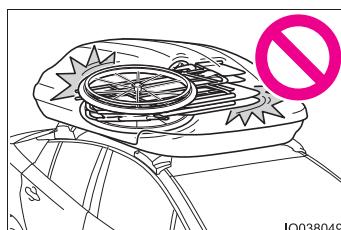
- トヨタ販売店でお客様の車いすに合わせてウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの取り付け、調整を行ってください。調整をしていないときは、格納しないでください。

車いすの固定がはずれ、車いすが不意に落下しけがをしたり、車いすやウェルキャリーが破損するおそれがあります。



- 格納する車いすがかわった場合、必ずトヨタ販売店でウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの再調整を行ってください。再調整をしていないときは、格納しないでください。

車いすの固定がはずれ、車いすが不意に落下しけがをしたり、車いすやウェルキャリーが破損するおそれがあります。



専用パワーステアリング

発進時や低速走行時の操作性向上のため、操作に必要な力を標準車にくらべて35～50%軽減しています。

⚠ 警告

■ステアリング操作について

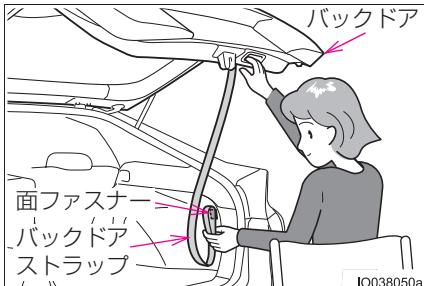
標準車にくらべて大幅にステアリングの操舵力が軽くなっていますので、はじめてこの車両を運転されるときは、特にご注意ください。

バックドアストラップ

車いすに座ったまま、バックドアを閉める方向に引き寄せることができます。

バックドアの開け方

- 1 バックドアを少し開け、片方の手でバックドアハンドルを持ってバックドアを支え、もう片方の手でバックドアストラップの先端の面ファスナーをはがす

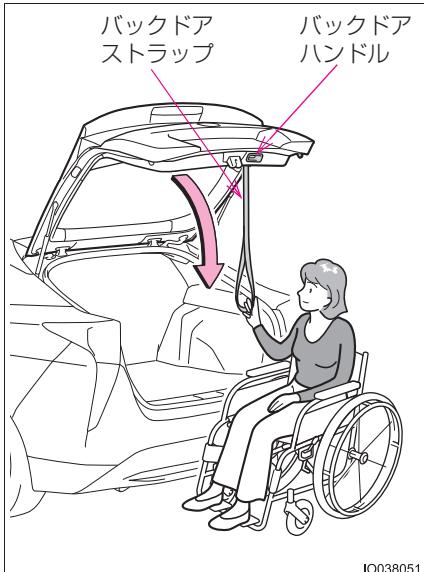


IO038050a

- 2 バックドアストラップを持ち、バックドアを全開にする

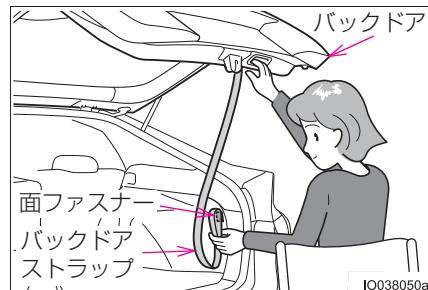
バックドアの閉め方

- 1 バックドアストラップを引き、バックドアに手が届く位置までバックドアを引き寄せる
 - ・バックドアに手が届く位置までバックドアを引き寄せたら、バックドアハンドルに手を添えます。
 - ・バックドアに頭があたらないように、バックドア作動範囲より少し離れた位置から操作してください。



IO038051

- 2** 片方の手でバックドアハンドルを持ってバックドアを支え、もう片方の手でバックドアストラップ先端の面ファスナーをラゲージルーム内右横後方に貼りつける



- 3** バックドアを外から押して閉める

バックドアストラップをバックドアで挟み込んでいないことを確認してください。

⚠ 警告

■走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉じてください。

開けたままにしておくと、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

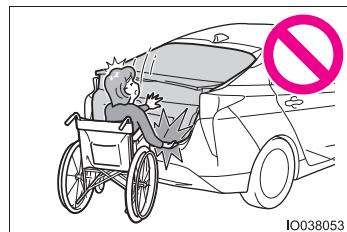
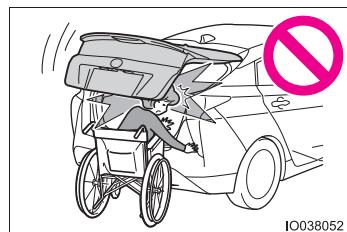
⚠️ 警告

■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- バックドアの閉め始めは重たいですが、動き始めると軽くなります。
バックドアで手や頭をぶつけないように注意してください。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。
- バックドアを閉めるときは、手や頭などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアストラップおよびバックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



お手入れのしかた

4

4-1. ウエルキャリーの手入れ
(タイプIII／タイプIV)

ウェルキャリーの清掃
(タイプIII／タイプIV)90

ウェルキャリーの清掃（タイプIII／タイプIV）

ウェルキャリーの清掃は、次のように行ってください。なお、清掃しているときは、ウェルキャリーが作動可能状態のため、振出スイッチまたは格納スイッチを押さないでください。

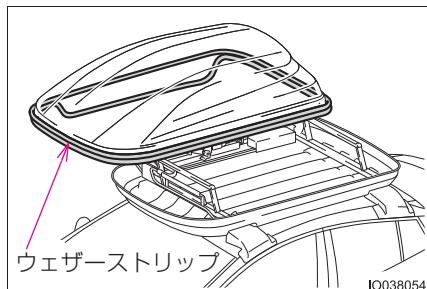
清掃の前の準備

- 車両右側および上方に十分なスペースがあることを確認してください。（→ P. 81）
- ユニット全体を右側にスライドさせます。

ウェザーストリップの清掃のしかた

汚れなどは、水またはぬるま湯を含ませた布を固くしぼってからふき取る

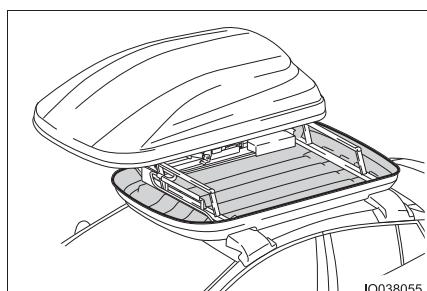
清掃するときに、シンナー、ガソリン、ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。



ウェルキャリー内部の枯葉やゴミなどの取り除き

ウェルキャリー内部に枯葉やゴミなどが落ちていたら取り除く

故障の原因になるおそれがあるため、ウェルキャリー内部に枯葉やゴミなどを放置しないでください。



 **知識****■ ウェルキャリーとルーフのすき間について**

ウェルキャリーとルーフのすき間は狭いため、洗車時に清掃はできません。

 **警告****■ ウェルキャリーの内部を清掃するときは**

ボルトの先端や配線のクランプにふれないでください。
指や手にけがをするおそれがあるため危険です。

 **注意****■ ウェルキャリーを清掃するときは**

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。
- 自動洗車機は、使用しないでください。
ウェルキャリーが破損するおそれがあります。

万一の場合には

5

5-1. 故障かな？とお考えになる前に

ヒューズの交換（タイプII／
タイプIII／タイプIV） 94

リモコン式専用運転席
パワーシートが
動かないときは
(タイプII／タイプIV) 96

ウェルキャリーが
動かないときは
(タイプIII／タイプIV) 97

ワイヤレスリモコン
の電池交換
(タイプIII／タイプIV) 98

5-2. 緊急時の対処法

ウェルキャリーが
振出した状態で
格納できないときは
(タイプIII／タイプIV) 100

ハイブリッドシステムが
始動できないときは
(タイプIII／タイプIV) 107

ヒューズの交換（タイプII／タイプIII／タイプIV）

ヒューズを点検する前に、作動条件（→P. 71, 77）をすべて満たしていることを確認してください。

作動条件をすべて満たしていてもリモコン式専用運転席パワーシートまたはウェルキャリーが動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。

ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

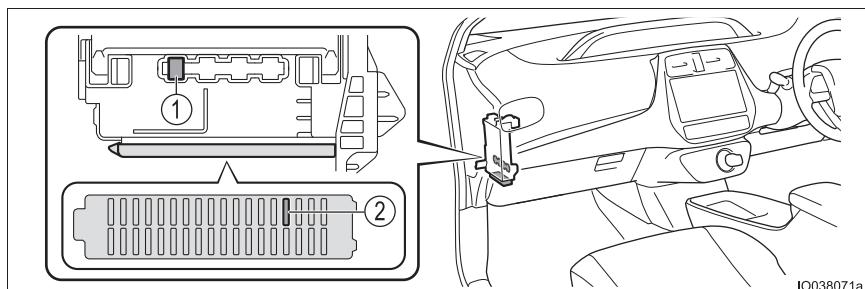
ヒューズ位置

■ 助手席側ヒューズボックス（タイプII／タイプIII／タイプIV）

アンダーカバーを取りはずし、コネクターをはずします。

アンダーカバーの取りはずしについては、標準車取扱書の「ヒューズの点検・交換」をお読みください。

ヒューズの点検についてはトヨタ販売店にご相談ください。



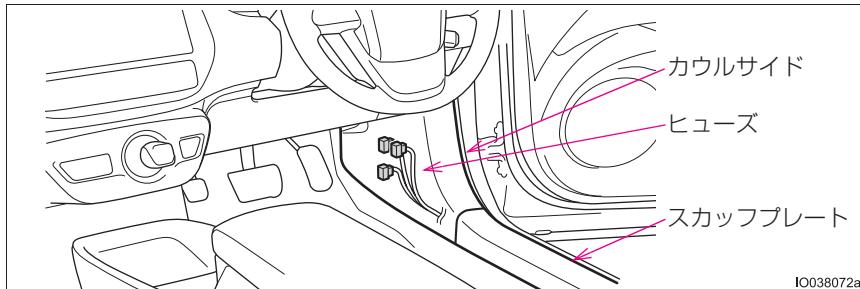
IO038071a

ヒューズ名称		アンペア数	使用装置
①	WELCAB	30A	リモコン式専用運転席パワーシート、 ウェルキャリー
②	ECU-IG1 NO.4	10A	リモコン式専用運転席パワーシート、 ウェルキャリー

■ 運転席側カウルサイド部（タイプII／タイプIII／タイプIV）

スカッフプレートをはずし、カウルサイドをはずします。

ヒューズの点検についてはトヨタ販売店にご相談ください。



アンペア数	使用装置
20A	リモコン式専用運転席パワーシート
10A, 30A	ウェルキャリー

□ 知識

■ ヒューズを交換したあとは

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換してもリモコン式専用運転席パワーシートまたはウェルキャリーが動かないとき

⚠ 警告

■ 車の故障や火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用する
- ヒューズやヒューズボックスを改造しない

リモコン式専用運転席パワーシートが動かないときは（タイプII／タイプIV）

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。（→ P. 71）

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。（→ P. 94）

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしても動かない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

修理が完了するまで、絶対にリモコン式専用運転席パワーシートを使用しないでください。

■ 正しい乗車姿勢で運転できる場合

ハイブリッドシステムを始動し、そのまま運転してトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 正しい乗車姿勢で運転できない場合

そのまま運転せず、トヨタ販売店にご連絡ください。やむを得ず運転する必要がある場合は、最小限の車両移動としてください。

ウェルキャリーが動かないときは（タイプⅢ／タイプⅣ）

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。（→ P. 77）

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。（→ P. 94）

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしても動かない場合

すみやかに点検を受けてください。

修理が完了するまで、絶対にウェルキャリーを使用しないでください。

■ ウェルキャリーが完全格納されている状態で動かない場合

そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ウェルキャリーが完全格納されていない状態で動かない場合

リセット（→P. 100）しても動かない場合は、トヨタ販売店または専門業者にP. 103「スイッチを押してもウェルキャリーが作動しないとき」の操作をご依頼ください。

□ 知識

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

→ P. 20

ワイヤレスリモコンの電池交換（タイプIII／タイプIV）

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

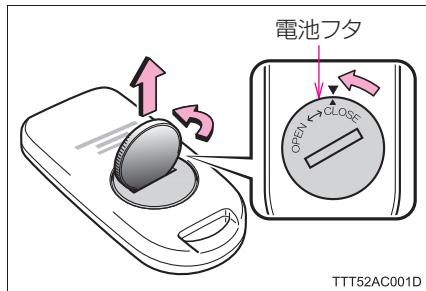
用意するもの

- コインなど、電池フタの溝に挿し込めるもの
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

① 電池フタをはずす

コインなどを電池フタの溝に挿し込み、▲マークが合う位置まで OPEN 側にまわし、電池フタをはずします。



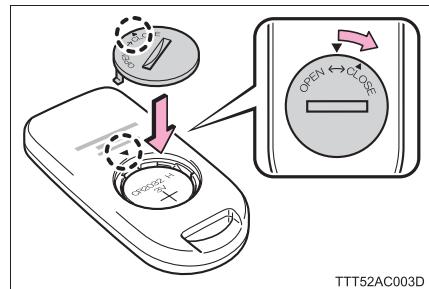
② 電池を交換する

電池を取り出し、新しい電池の+側を上（電池フタ側）にして挿入します。
使用電池 リチウム電池 CR2032



3 電池フタをはめる

- 電池フタと送信機の▲マークを合わせてはめます。
- コインなどを電池フタの溝に挿し込み、CLOSE側にまわし、電池フタを締め込みます。



4 作動確認をする

電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6秒以内）に振出スイッチまたは格納スイッチを押して、動作表示 LED が緑色に点滅することを確認します。

□ 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などで購入できます。

⚠ 警告

■ 取りはずした部品や電池について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 電池交換時に部品を紛失しない
- 電池フタを曲げたりしない
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしない
- 電池の+極と-極は必ず正しい向きにして挿入する
- 電池挿入部の電極を曲げたり、ゴミや油などを付着させない

ウェルキャリーが振出した状態で格納できないときは（タイプIII／タイプIV）

万一、ウェルキャリーが振出または格納途中で動かなくなってしまったときは、車を走行させることができません。

ヒューズを点検・交換（→P. 94）または、リセットしても動かない場合は、トヨタ販売店または専門業者にP. 103「スイッチを押してもウェルキャリーが作動しないとき」の操作をご依頼ください。

リセットについて

ウェルキャリーが動かなくなったときや正常に動作しないときは、初めにワイヤードリモコンを使用してリセットを行ってください。

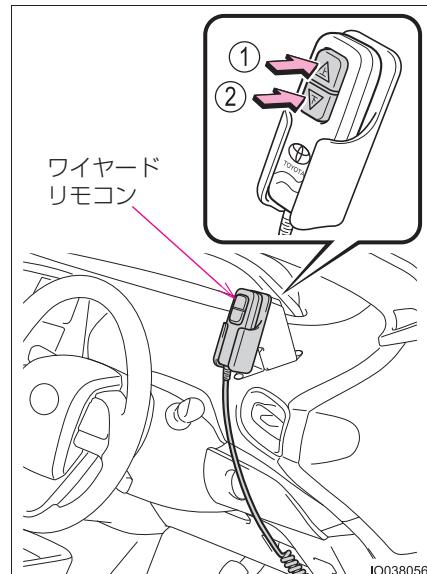
- ウェルキャリーが完全格納している場合は、そのままの状態でトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ウェルキャリーに車いすが搭載されている場合は、車いすが搭載されている状態のまま操作してください。
- これらの操作はワイヤレスリモコンでは行えません。

- 1** 操作前に、必ず車両のパワースイッチを ON モード以外にし、パークリングブレーキがかかっていることを確認する
- 2** ワイヤードリモコンのスイッチを操作してもウェルキャリーが作動しない（作動する場合は、作動しなくなる位置まで作動させた）状態で、格納スイッチまたは振出スイッチを 10 秒間押し続ける（ブザーが鳴る）

① 格納スイッチ

② 振出スイッチ

ブザーが鳴りやんだらスイッチから指を離します。



IO038056

- 3** 手順**2**のブザーが鳴りやんでから 3 秒以内に、手順**2**で押したスイッチとは逆のスイッチを 10 秒間押し続ける（ブザーが鳴る）
ブザーが鳴りやんだらスイッチから指を離します。
- 4** 手順**3**のブザーが鳴りやんでから 10 秒以内（次のブザーが鳴り始めるまで）に、ワイヤードリモコンの格納スイッチまたは振出スイッチを 4 回押す

5

万一の場合には

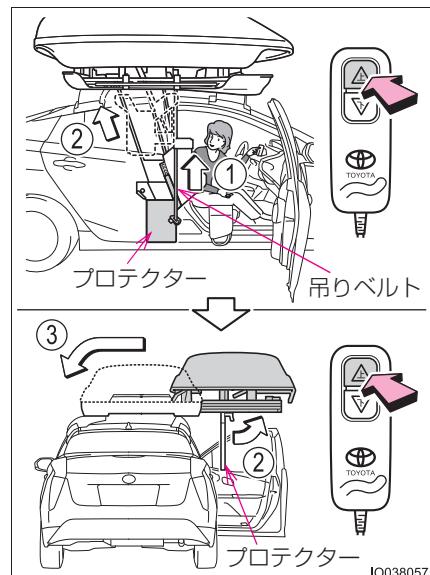
- 5 手順④で押したスイッチとは逆のスイッチを4回押します。

操作完了すると、“ピッピー”とブザーが鳴ります。

- 6 ワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け(ブザーが鳴り続ける)、ウェルキャリーを完全格納する(通常作動とは異なります)

- ① 吊りベルトが上昇する
- ② プロテクターが上昇し、回転する
- ③ ユニット全体がスライドし、ウェルキャリーが完全格納する

作動が停止し、ブザーが鳴りやむまで格納スイッチを押し続けます。



- 7 ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンでウェルキャリーを操作し、ウェルキャリーが通常作動することを確認する

スイッチを押してもウェルキャリーが動かない、または通常作動にもどっていないときは、そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。

スイッチを押してもウェルキャリーが作動しないとき

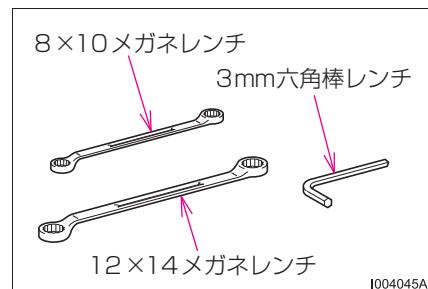
ウェルキャリーを手動格納する前に、必ず P. 100 の「リセットについて」の操作を実施してください。

それでもウェルキャリーが完全格納できないときは、次の手順で手動でウェルキャリーを格納します。

- 手動格納作業は、必ず 2 人以上で行ってください。
- ウェルキャリーに車いすが搭載されている場合は、手動格納作業は行わず、トヨタ販売店にご連絡ください。(→ P. 11)

■ 使用工具について

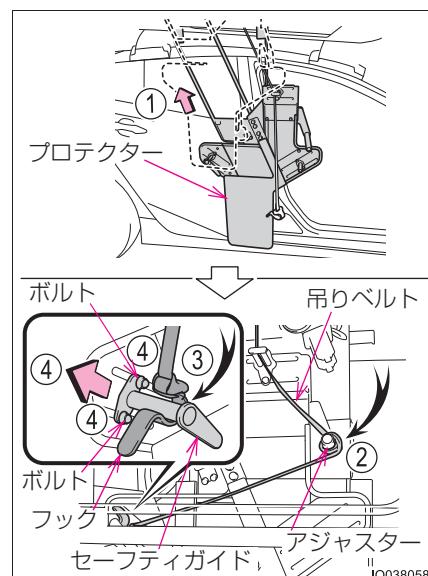
ウェルキャリーを手動で完全格納状態にもどすときは、右図の工具を使用します。



■ ウェルキャリーを手動で格納させるときは

- 1 プロテクターを上がらなくなる位置まで持ち上げ、吊りベルトのフックをセーフティベルトに引っかけ、はずれないようにする

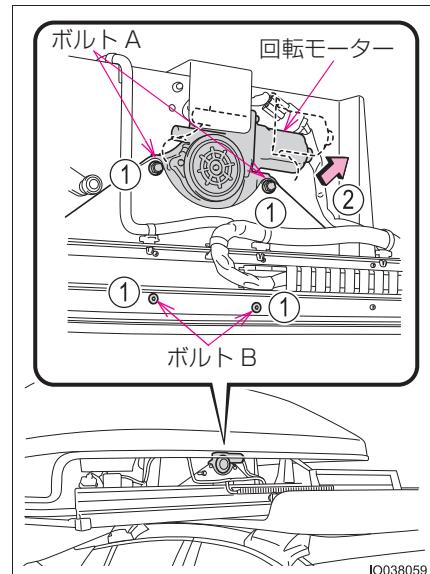
- ① プロテクターを上がらなくなる位置まで持ち上げる
- ② 吊りベルトをフックがかけられる位置までアジャスターに巻き付ける
- ③ フックをセーフティガイドに引っかける
- ④ 12×14 メガネレンチを使用してボルト2本をゆるめ、吊りベルトが張った状態になるまでセーフティガイドをスライドさせる



フックがはずれないことを確認します。

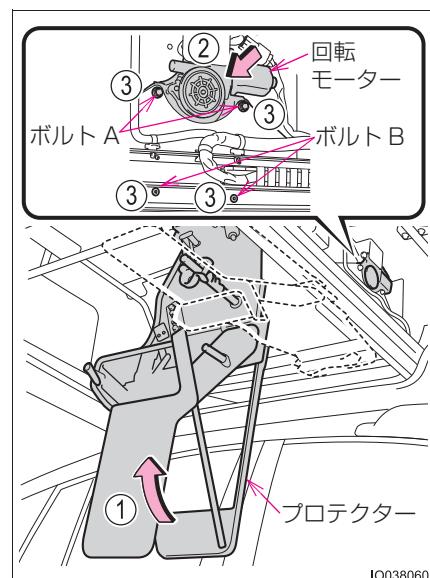
- [2]** 12×14 メガネレンチを使用して手順①の④でゆるめたボルト2本を締め、セーフティガイドを固定する
- [3]** 回転モーターのギヤのかみ合いをはずす

- ① 8×10 メガネレンチを使用してボルトA 2本を取りはずし、六角棒レンチを使用してボルトB 2本を取りはずす
- ② 回転モーターを上方にずらし、ギヤのかみ合いをはずす



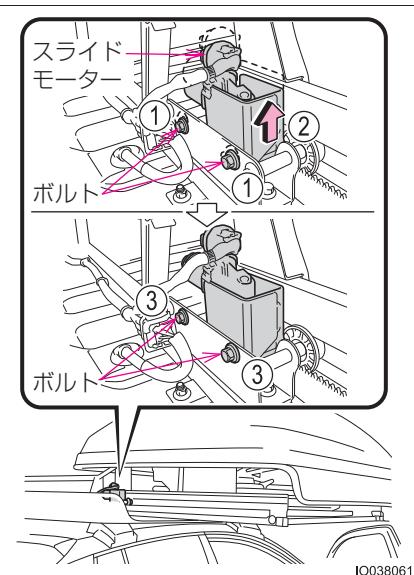
- [4]** プロテクターをまわらなくなる位置まで回転させ、その位置からプロテクターが動かないようにする

- ① プロテクターをまわらなくなる位置まで回転させる
- ② ①の状態でギヤをかみ合わせ、回転モーターを取り付ける
- ③ 8×10 メガネレンチを使用してボルトA 2本を取り付け、六角棒レンチを使用してボルトB 2本を取り付ける



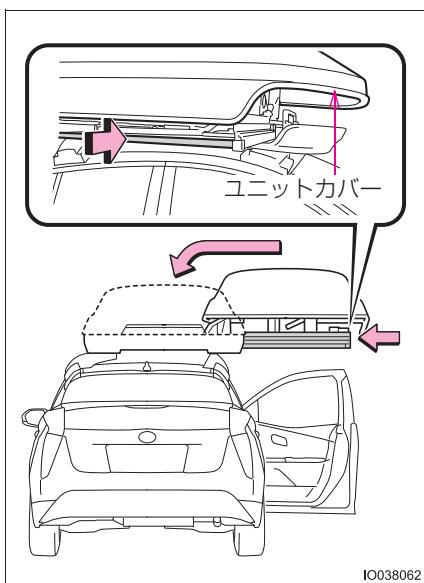
5 スライドモーターをずらし、ギヤのかみ合いをはずす

- ① 12×14 メガネレンチを使用してスライドモーターのボルト2本をゆるめる
- ② スライドモーターを上方にずらし、ギヤのかみ合いをはずす
- ③ ②の状態で12×14メガネレンチを使用してスライドモーターのボルト2本を締める



6 ユニット全体を手動で格納方向にゆっくりスライドさせ、ロックさせる

- ・スライド時、ユニットカバーに手を挟まれないようにします。
- ・完全格納後、振出方向に引いてみて、確実にロックされていることを確認します。



7 ウエルキャリーのヒューズ（10A）を取りはずす（→ P. 95）

ウェルキャリーが完全格納後に、ブザーが鳴る可能性があるため、ヒューズを取りはずします。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■ ウエルキャリーが完全格納されたにもかかわらず、ハイブリッドシステムが始動できないときは**

ウェルキャリーを完全格納しても、ウェルキャリーの異常制御により、ハイブリッドシステムが始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

 警告**■ ウェルキャリーを手動で格納するときは**

- 必ず2人以上で作業を行ってください。
- 必ず車いすが搭載されていない状態で作業を行ってください。
車いすが搭載されていると、格納作業中に車いすが落下しけがをするおそれがあります。
また、完全格納後に車いすの固定不足のため、ウェルキャリー内で車いすが動き、思わず事故につながるおそれがあり危険です。
- ウェルキャリー格納スペースに手や頭を入れないでください。
ウェルキャリー可動部などで手や頭などを挟み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 工具を使用したあとは、グローブボックスなどの所定の場所に確実に収納してください。
車室内などに放置すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、工具が飛んできて乗員にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ 紛失を防ぐために**

取りはずした部品は袋に入れるなどして、紛失しないようにしてください。

ハイブリッドシステムが始動できないときは（タイプⅢ／タイプⅣ）

次の処置をしてください。

ウェルキャリーの格納状態の確認

ウェルキャリーが完全格納されていることを確認してください。
(→ P. 78, 80)

ハイブリッドシステムの始動について

■ ウェルキャリーが完全格納されている場合

ウェルキャリーが完全格納されている状態でハイブリッドシステムが始動できない場合は、標準車取扱書の『ハイブリッドシステムが始動できないときは』を確認してください。

緊急時始動機能でハイブリッドシステムを始動してそのまま運転し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

また、始動できない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ ウェルキャリーが完全格納できなかった場合

ハイブリッドシステムが始動できても運転せず、トヨタ販売店にご連絡ください。

□ 知識

■ ウェルキャリーが完全格納されずに、ハイブリッドシステムを始動したときは

ウェルキャリーが完全格納されていない場合でも、緊急時始動機能でハイブリッドシステムを始動することができます。ただし、そのまま運転せず、すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 警告

■ ハイブリッドシステムを始動できたときは

ハイブリッドシステムが始動できても、ウェルキャリーが完全格納されていない場合は、そのまま運転しないでください。

思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

点検・整備項目

6

6-1. 点検・整備項目 (タイプIII／タイプIV)

定期点検整備
(タイプIII／タイプIV) 110

定期点検整備（タイプIII／タイプIV）

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、巻末の記録簿をA4サイズにコピーして使用してください。

	点検整備項目	点検時期		交換時期（年）	備考
		日常点検	自家用車		
ウェルキャリー	ウェルキャリー（本体）				
	クッションゴム（スライド原点、回転原点、プロテクター下端）の摩耗		○		
	水抜き穴のつまり		○		水抜き穴がつまったら清掃
	取付部のゆるみ・ガタ		○		
	スライドレールの摩耗・変形		○		
	ウェザーストリップの傷・変形・はすれ		○		ウェザーストリップが切れたたら交換
	ローラー（メイン4個、サブ2個）の割れ・破損		○		ローラーが割れたら交換
作動時の引っかかり・異常			○		
夜間照明灯					
電球切れ		○	○		電球が切れたたら交換
吊りベルト					
傷・ほつれ		○	○		ほつれが始まったら交換

点検整備項目	点検時期				交換時期(年)	備考
	日常点検	自家用車	12か月ごと	24か月ごと		
ウエルキャリー	フック、Cリング はずれ・変形	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			Cリングが変形したら交換
	車いす吊り上げバンド 傷・ほつれ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			ほつれが始まったら交換
車いす	本体のネジのゆるみ ^{※1}		<input type="radio"/>			車いす購入先で点検を受けてください

^{※1} 車両の振動によって格納した車いすのネジがゆるむおそれがあります。定期的に車いすの点検を行ってください。

^{※2} 空欄については点検および交換の必要はありません。

消耗部品

次の部品は使用頻度・経年変化などにより、消耗・劣化する部品です。
点検時に摩耗や損傷状態を見て早めに交換してください。

- 交換作業はトヨタ販売店にお申し付けください。

消耗部品
吊りベルト、車いす吊上げバンド、Cリング、ウェザーストリップ、ローラー（メイン4個、サブ2個）、夜間照明灯の電球（12V/5W）

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	114
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	117
五十音順さくいん.....	118

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

故障かな？と思ったら



ブザーが鳴りだした

- 「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 117）をご確認ください。

リモコン式専用運転席パワーシートについて（タイプII／タイプIV）



リモコン式専用運転席パワーシートが作動しない

- 車両のパワースイッチがONモードで、パーキングブレーキが解除されていませんか？（→ P. 71）
- 専用リモコンの複数のスイッチを同時に押していませんか？（→ P. 24）
- 連続して何度もリモコン式専用運転席パワーシートを操作していませんか？（→ P. 71）
- 補機バッテリーの容量が不足していませんか？
補機バッテリーを充電または交換してください。
- ヒューズが切れていませんか？（→ P. 94）

■ ウエルキャリーについて（タイプⅢ／タイプⅣ）



ウエルキャリーが動かない

- 車両のパワースイッチが ON モードになっていませんか？（→ P. 77）
- パーキングブレーキが解除されていませんか？（→ P. 77）
- 断続的にスイッチを押していませんか？（→ P. 27, 30）
- ヒューズが切れていませんか？（→ P. 94）
- 補機バッテリーの容量が不足していませんか？
補機バッテリーを充電または交換してください。
- ウエルキャリー操作中に補機バッテリーをはずしていませんか？
(→ P. 20)
ウエルキャリー操作中に補機バッテリーをはずしたときは、リセット操作が必要になります。（→ P. 100）
- 保護機能が働いていませんか？（→ P. 77）



ウエルキャリーが少し反転して停止した

- ウエルキャリー作動中、障害物にあたっていませんか？（→ P. 78）



車いすが格納できない

- 格納可能な車いすのサイズを満たしていますか？（→ P. 79）
- 格納する車いすをかえましたか？（→ P. 84）



ハイブリッドシステムが始動できない

- ウェルキャリーが完全に格納されていますか？（→ P. 78）



ウェルキャリーが動かない（ワイヤレスリモコンで車外から操作している場合）

- 車両から離れすぎていませんか？（→ P. 29）
- 周囲の電波状況により、ウェルキャリーが作動しなくなることがあります。
位置をかえてワイヤレスリモコンのスイッチを押し直すか、ワイヤーリモコンで操作をしてください。（→ P. 26, 30）
- 電源スイッチを押してから6秒以内（動作表示LEDが赤色点灯中）に、振出スイッチまたは格納スイッチを押していますか？（→ P. 30）
- 断続的にスイッチを押していませんか？（→ P. 30）



ワイヤレスリモコンの作動可能距離が著しく短くなったり、動作表示LEDが点灯・点滅しなくなった

- 電池を交換してください。（→ P. 98）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするためにブザーが鳴ります。

ウェルキャリー操作時

状況	原因	詳細
ワイヤレスリモコンまたはワイヤードリモコンのスイッチを押したとき	ウェルキャリー作動開始	P. 27 P. 30
	ウェルキャリーが作動中のとき	P. 80
	ウェルキャリーが振出中にいったん停止するとき	P. 80
	ウェルキャリーが完全格納状態で格納スイッチを押した	P. 80
	ウェルキャリーが完全格納された	P. 52 P. 63 P. 78
ウェルキャリーが完全格納されていないとき	車両のパワースイッチを ON モードにした	P. 80
ウェルキャリーが少し反転して停止したとき	ウェルキャリーが作動中、障害物にあたるなどウェルキャリーの作動がさまたげられた	P. 78

五十音順さくいん

あ

安全なドライブのために	
車内外への乗降・車いすの 格納について 16	
補機バッテリーについて （タイプIII／タイプIV） 20	

い

移乗ボード 42～46, 59～61	
一般的な使用上の注意	
ウェルキャリーについて （タイプIII／タイプIV） 10	
運転席側のフロントドア	
ポケットについて （タイプII／タイプIV） 10	
車いすからリモコン式専用	
運転席パワーシートへの 移乗について 10	
不測の事態に備えて 11	
リモコン式専用運転席	
パワーシートについて （タイプII／タイプIV） 10	

う

ウェルキャリー（タイプIII／タイプIV）	
ウェルキャリーについて 77	
故障かな？と	
お考えになる前に 97	
作動条件について 77	
作動について 78	
作動のしかた 76	
スイッチを押しても	
ウェルキャリーが 作動しないとき 103	
清掃 90	
搭載可能な車いすの目安 79	
ブザー音について 80	
振出した状態で	
格納できないときは 100	
保護機能について 77	
夜間照明灯 76	
リセットについて 100	
ウェルキャリーが動かなくなった ときは（タイプIII／タイプIV）	
作動条件の確認 13	
作動条件をすべて満たしている にもかかわらず	
ウェルキャリーが 動かなくなった場合 13	
不測の事態に備えて 11	
運転支援装置	
専用パワーステアリング 85	

お

- お手入れのしかた
 ウェルキャリーの手入れ
 (タイプⅢ／タイプⅣ) 90

か

- 各部の操作／運転
 ウェルキャリー
 (タイプⅢ／タイプⅣ) 76
 運転支援装置について 85
 助手席シート
 (タイプⅠ／タイプⅡ) 68
 バックドアの開閉 86

き

- 緊急時の対処法
 ウェルキャリーが振出した
 状態で格納できないときは
 (タイプⅢ／タイプⅣ) 100
 ハイブリッドシステムが
 始動できないときは
 (タイプⅢ／タイプⅣ) 107

く

- 車いす固定用ストラップ
 (タイプⅡ／タイプⅣ) 36
車いす吊上げバンド
 (タイプⅢ／タイプⅣ) 84
車いすの目安 32, 35, 79

こ

- 故障かな?とお考えになる前に
 ウェルキャリーが
 動かないときは
 (タイプⅢ／タイプⅣ) 97
 ヒューズの交換 94
 リモコン式専用運転席
 パワーシートが
 動かないときは
 (タイプⅡ／タイプⅣ) 96
 ワイヤレスリモコン
 の電池交換
 (タイプⅢ／タイプⅣ) 98

さ

- 作動条件
 ウェルキャリー
 (タイプⅢ／タイプⅣ) 77
 リモコン式専用運転席
 パワーシート
 (タイプⅡ／タイプⅣ) 71

し

車内外に乗降するときは	
車いすの目安	32, 35, 79
車内外への乗降および	
車いすの格納（タイプI）	
車いすを車外に出すとき	
および車外に	
降車するときは	40
車内に乗車および	
車いすを格納するときは	38
車内外への乗降および	
車いすの格納（タイプIII）	
車いすを車外に出すとき	
および車外に	
降車するときは	52
車内に乗車および	
車いすを格納するときは	50
助手席前倒し機構 &	
操作ストラップ	
（タイプI／タイプII）	
前倒しのしかた	68

せ

専用パワーステアリング	85
専用リモコン	
（タイプII／タイプIV）	22

た

タイプ別主要装備一覧表	5
定期点検整備記録簿	
（タイプIII／タイプIV）	巻末
点検・整備項目（タイプIII／タイプIV）	
消耗部品	111
定期点検整備	110
電動車いすをご使用の方へ	
（タイプIII／タイプIV）	35

と

搭載可能な車いすの目安	
（タイプIII／タイプIV）	79

な

中折れ式シートバック	
（タイプII／タイプIV）	70

は

ハイブリッドシステムが	
始動できないときは	
（タイプIII／タイプIV）	107
バックドアストラップ	86

ひ**ヒューズ**

- 運転席側カウルサイド部 95
助手席側ヒューズボックス 94

ふ

- ブザー音について
(タイプIII／タイプIV) 80
不測の事態に備えて 11

へ

- ヘッドレスト 74

ほ

- 補機バッテリーについて
(タイプIII／タイプIV) 20
保護機能
(タイプIII／タイプIV) 77

ま

- 万一の場合には
故障かな?と
お考えになる前に 94

や

- 夜間照明灯
(タイプIII／タイプIV) 76

り

- リセットについて 100
リモコン式専用運転席
パワーシート (タイプII／タイプIV)
移乗ボード 42 ~ 46, 59 ~ 61
クッション前端の高さ調整 69
故障かな?と
お考えになる前に 96
シートバック中折れ用
ストラップ 70
前後位置調整 69
専用リモコン 22, 69
調整のしかた 69
中折れ式シートバック 70
ヘッドレスト 74
リクライニング調整 69
リモコン式専用運転席
パワーシートが動かなく
なったときは (タイプII／タイプIV)
作動条件の確認 12
作動条件をすべて満たしている
にもかかわらず
リモコン式専用運転席
パワーシートが
動かなくなった場合 12
不測の事態に備えて 11

リモコン式専用運転席	
パワーシートでの車内外への	
乗降および車いすの格納（タイプⅡ）	
車いすを車外に出すとき	
および車外に	
降車するときは 46	
車内に乗車および車いすを	
格納するときは 41	
リモコン式専用運転席	
パワーシートでの車内外への	
乗降および車いすの格納	
（タイプⅣ）	
車いすを車外に出すとき	
および車外に	
降車するときは 64	
車内に乗車および車いすを	
格納するときは 58	

わ

ワイヤードリモコン	
（タイプⅢ／タイプⅣ）	
各部の名称 26	
リモコンホルダー 26	
ワイヤレスリモコン	
（タイプⅢ／タイプⅣ）	
各部の名称 29	
故障かな？と	
お考えになる前に 98	
作動可能範囲 29	
作動条件について 30	
使い方 29	
電池交換 98	

《フレンドマチック系》

■その他必要となつた点検整備の内容
及び主な交換部品

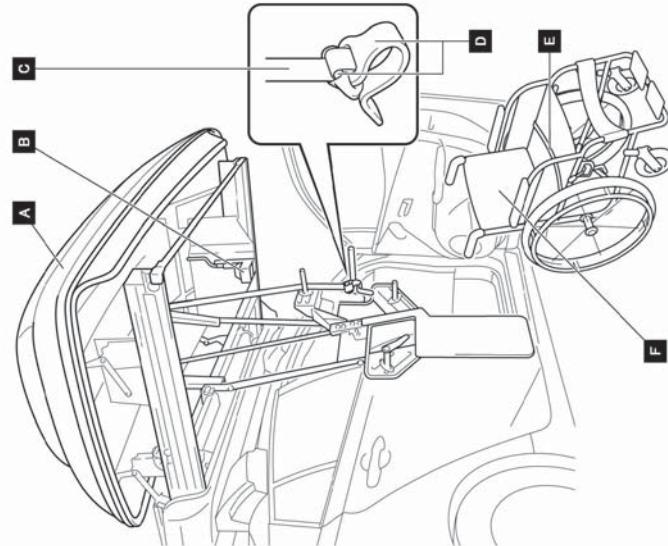
ウエルキヤブシリーズ
「F1」ビデオチャレンジ取付用専用革(ウエルキヤブ)|一

12か月定期点検記録簿

該当なし	/	異常なし	レ	交換	X	継付	T	清掃	C
調整	A	修理	△	給油	L	省路	P		

占檢の結果を上7パ整備の概要

二十一



- | | | |
|---|------------------------------------|--|
| A | ウエルキャリー(本体) | |
| B | クレーンジョブゴム(スライド原点、回転原点、プロテクター下端)の錆毛 | |
| C | 水抜穴のつまり | |
| D | 取付部がゆるみ、ガタ | |
| E | ストラットの摩耗、変形 | |
| F | ウエーブスリップの傷、変形(はずれ) | |
| G | ローラー(マイクロ、サブノブ)の傷、破損 | |
| H | 作動時引っかかる、異常 | |
| I | 夜間照明灯 | |
| J | 電球切れ | |
| K | 用引ベルト | |
| L | 傷(ほれ) | |
| M | フック、リング | |
| N | はすれ、変形 | |
| O | 車いす昇上げハンド | |
| P | 傷(ほれ) | |
| Q | 車いす | |
| R | 木板(木の板)のゆるみ、 | |

※：悪いす隠入先下点讀を受けてください

万能型吸音材料の施工計画	申請の日付月日
施工者名 実地名	年月日

百經·本草綱目

工場地圖

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願ひいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

0800-700-7700
フリーコール

オーブン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

トヨタ ウェルキャブシリーズ



1852309
II-2018年12月10日
2018年12月17日 初版
プリウス
フレンドマチック取付用専用車